

目 次

1. 設置の趣旨及び必要性	1
2. 研究科、専攻等の名称及び学位の名称	8
3. 教育課程の編成の考え方及び特色	9
4. 教員組織の編成の考え方及び特色	14
5. 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件	18
6. 施設・設備等の整備計画	23
7. 既設の学部等との関係	28
8. 入学者選抜の概要	29
9. 14条特例による教育方法の実施（実習の具体的計画）	33
10. 2つ以上の校地において教育を行う場合の教員配置	34
11. 管理運営	35
12. 自己点検・評価	36
13. 情報の公表	38
14. 教育内容改善のための組織的な研修	42

1. 設置の趣旨及び必要性

【山口大学大学院連合獣医学研究科の実績と課題】

獣医学教育の6年制移行による修士課程の廃止と関連して、山口大学大学院連合獣医学研究科（博士課程）及び岐阜大学大学院連合獣医学研究科が発足し、同時に北海道大学、東京大学、大阪府立大学及び私立5大学においても新制獣医学系大学院（4年制博士課程）が、平成2年4月に発足した。既設の山口大学大学院連合獣医学研究科は、山口大学、鳥取大学、宮崎大学及び鹿児島大学の各農学部獣医学科の教員組織並びに研究設備及び施設を連合して、標準修業年限4年の新制獣医学系大学院博士課程として平成2年4月に発足し、「獣医学に関する高度の、専門的能力と豊かな学識を備え、かつ、柔軟な思考力と広い視野を持って、社会の多様な方面で活躍できる高級技術者及び独創的な研究をなし得る研究者を養成することにより、学術の進歩及び社会の発展に寄与する」ことを教育理念とし、また、発展途上国からの外国人留学生の積極的な受け入れを推進してきた。

設置以来27年間にわたって構成大学の特徴を活かしつつ、獣医学を網羅的に教育研究できる体制の構築に取り組み、国内外に数多くの人材を輩出し、獣医科学の発展に貢献している。研究科としての学位授与数は、課程博士修得者383名、論文博士取得者63名、そのうち留学生が海外27カ国から129名にのぼり、修了生の学位取得後の社会での活躍及びその可能性を育む教員の人材育成への熱意と努力を基盤に、地方大学を結んだ獣医学分野における学位授与と機関として、一定の機能を果たしてきた。当初からアジア圏を中心として海外27カ国から留学生を受け入れてきた実績は、帰国留学生の高等教育機関・研究機関での畜産振興（食の確保）と公衆衛生（食の安全・環境の安全）の教育・研究を通して、世界の人々が安心して暮らせる現代生活の維持と向上に大きく貢献している。このようなグローバルな教育環境の中で育つ日本人学生も、その視野を広げ、世界先端レベルの業績を積み重ねており、連合獣医学研究科として社会的に大きく貢献してきたと考えている。

一方で、山口大学大学院連合獣医学研究科は、沿革も立地条件も特色も異なる3大学が連合した独立研究科であることから（平成22年4月に宮崎大学が離脱したため、3大学となった。）、3大学とも個性豊かで全く異なる組織であることを再認識するとともに、「組織と組織の結びつき」が「知識と知識の結びつき」につながることの大切さを再思している。教育研究面では、大学院生は配属大学において研究に専念する一方で、他大学に跨る多様な研究者との交流を以て、「人と人との結びつき」を深めなければならない。「基幹校と構成校との結びつき」については、構成校から起案された研究事業計画が基幹校である山口大学の要求事項として申請され難い等の事態も憂慮されている。「ミッションの再定義」では、教育の実質化や研究の高度化に向けて、横断的な研究拠点構想、客員教員制度の創設、連携大学院の拡充、海外の大学院との共同教育課程の模索等々、更なる努力を求められている。

（参考「山口大学大学院連合獣医学研究科ホームページ、歴代の研究科長挨拶」
<https://ds22.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~renju/v01.html>）

【山口大学・鹿児島大学大学院共同獣医学研究科設置の目論見】

全国に配在されている我が国の獣医学系大学・大学院では、その立地環境や地域性を活かした獣医学教育研究が行なわれているものの、教育資源の偏在が教育研究の内容に偏りを生じていることは否めない。それを解消するために、国立大学法人間では、獣医学部教育の共同教育課程が進められてきたところである。また獣医師としての技能評価機能を欠く現行の国家試験制度によって、我が国における獣医学教育は、知識偏重／実技軽視へと標準化が促進され、卒業時に獣医師としての知識と技能（First-day Skills）を付与することを目標として行われる欧米先進国の獣医学教育とは大きくかけ離れたものとなっている。山口大学及び鹿児島大学は、教育研究フィールドの重点化と共有、相互補完による教育の質向上を図る共同獣医学部としてすでに一つの教員組織を形成し、EU 諸国の獣医学教育の質を担保する評価機構である EAEVE（欧州獣医学教育評価機構、European Association of Establishments for Veterinary Education の略）による教育認証取得に向けて教育改革を進めている。教員スタッフの充実や先進的な教育施設の整備に加えて、地域の獣医関連機関との密接な産官学連携によって課題解決型の実践的獣医学教育研究フィールドを充実・拡大させ、EAEVE が求める「獣医師が担う全ての職務と獣医療が対象とする全ての動物種について幅広く専門的な教育の提供」を念頭に、知識偏重教育から技能付与教育へと学士課程教育の質的転換を実現している。山口大学・鹿児島大学の次のステップは、欧米の獣医学教育に必須とされる「学部卒業者に対して学士課程教育を補い強化するための Advanced Postgraduate Degree Program の提供」に向けて、多様な卒業後教育システムの創出に我が国の獣医学教育機関として初めて取り組むことであり、それが本共同獣医学研究科の企図するところとなっている。

【共同獣医学課程の枠組による獣医系大学院再編への期待】

平成 26 年、第二期の獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議は、獣医学の大学院教育の充実について、①進学者確保のため学部段階からライフサイエンスに関する学生の興味を喚起できる教育への積極的な取組、②獣医学に関する教育研究資源の地域偏在の解消、地域特性や既存大学の強みや特色を踏まえながら、将来的なブロック毎の大学院の集約的整備、③国立大学における現行の共同獣医学課程の枠組といわゆる連合大学院の枠組との間にずれが存在することを認識してより効果的かつ効率的な教育の実現に向けた自律的な努力、の必要性を提言した。国立獣医系大学における少人数制教育を長所として活かしながら、全国各地で発展してきた大学の強みや特色の相互提供・補完を通じて、効率的かつ効果的な獣医学教育を行うことを目的に創られた「共同獣医学課程の枠組」において大学院教育を行うことは、「共同としての結びつきを尚以て強化・安定させる」ために必然的であるといえる。

山口大学大学院連合獣医学研究科（「連合」）を解消して山口大学大学院・鹿児島大学大学院共同獣医学研究科（「共同」）とすることの最大の変更点は、「連合」としての基幹校に負託されてきた研究科の企画・運営の実務及び事務所掌を「共同」となる各構成校が独自に遂行するようになることである。「連合」において、基幹校は構成校の独自性と特性を尊重しながら運営を主導してきた。一方「共同」においては、自らの強みや特色あ

る教育研究を引き出すために、各研究科の運営や改革プランを各自が柔軟かつ迅速に立案し、自大学の方針に沿って遂行するようになる。共同獣医学部において明らかなように、「共同」では、各自の重点化が促進される可能性が高まり、その結果として、2つの研究科間では教育・研究の相互補完をより強く求めるようになる、すなわち「共同」としての結びつきは「連合」よりも更に強固なものとなると期待される。「共同」の枠組において、双方の教育改革を推進しながら、双方がもつ特有の研究フィールドの発展と共有、重点化領域における技術提携、及び教育分野の専門化等を積極的に推進し、「連合」において課題とされた「2大学間の結びつき強化」を図り、共同研究プロジェクトの申請・獲得の増、共同教育研究拠点の創出・発展、そして大学院教育の役割分担・実質化等を早期実現できると期待される。

国立大学改革プランでは、第三期中期目標期間に「各大学の強み・特色を最大限に生かし、自ら改善・発展する仕組みを構築することにより、持続的な競争力を持ち、高い付加価値を生み出す国立大学」を求めている。これは、山口大学と鹿児島大学の共同獣医学部が目指す EAEVE 認証が求める獣医学教育機関として備えるべき基本的水準でもある。両大学では、山口大学大学院連合獣医学研究科の実績と理念を受け継ぐ新たな共同獣医学研究科を設置して、以下、国際認証に対応した学部教育に立脚した大学院教育を創出する。

- 1) 国内外における連合獣医学研究科の実績及び成果を礎に、学士課程を補い強化するための卒業教育を、多様な社会ニーズに対応させて提供する。
- 2) 各大学特有の獣医学研究フィールドを拡充及び共有した、より幅の広い先端的な獣医学研究を先導し、高度獣医学専門家／獣医療人を養成する。
- 3) 共同獣医学部からの内部進学者、及び地域からの社会人入学者の確保とともに、山口大学大学院連合獣医学研究科の実績である国内外学術交流協定校及び研究機関からの入学者受入れを積極的に行う。
- 4) 双方向性遠隔講義システム及び授業支援システムを有効活用し、大学院教育の実質化を確実に遂行する。
- 5) 構成大学の強みや特色を明確化して、各研究科に優先的な改革プランを柔軟かつ迅速に構築し推進する。

(資料① 山口大学・鹿児島大学大学院共同獣医学研究科構想 参照)

(1) 社会的背景と設置の必要性

獣医学は、生物学を基盤とする応用動物科学であり、生命科学研究推進の中核的役割を担うとともに、人類と動物の関係を考究し、動物の健康を通じて人間社会の健全性と福祉に貢献する学問領域である。獣医学系大学院研究科が、本学問領域を発展・展開させる場として、次世代の獣医学研究と教育システムの開発・構築を担うことは言うまでもない。

社会のグローバル化は「食」及び「動物由来感染症」のボーダーレス化を生み、「食資源の確保とその安全性」や「感染症の防御・制圧」が、獣医学に課せられた喫緊かつ永続的課題となり、2020年の東京オリンピックをはじめとする国際的に開催されるスポーツ・文

化大会や政治的国際会議でさえその対象となっている。これを含めた時代の社会ニーズに即応できる獣医学を構築するには、ライフサイエンスの基盤となる基礎獣医学、感染症制御に向けた応用獣医学、食の安定供給に関わる産業動物臨床獣医学、福祉・比較医科学に貢献する伴侶動物臨床獣医学を発展・展開させることが必須であり、各々の研究発展とこれに携わる高級技術者としての獣医学専門家の人材育成が研究科としての使命である。

我が国の獣医学はアジアの拠点として国際的リーダーシップを取るべき立場にあり、畜産物輸入拠点である福岡に隣接する山口大学と日本屈指の畜産県に位置する鹿児島大学に設置される研究科が、地理的にもアジアからの防疫の教育・研究推進拠点として極めて重要な位置を占める大学であることは言うまでもない。

両大学は、合致する教育目標、「個性あふれる専門性と社会性、自己啓発・自己研鑽に努め、自己管理能力を有し、地域社会及び国際社会の発展に貢献するために、21世紀の知識社会における課題探求と問題解決の能力を持った人材を育成する。(山口大学)」、「幅広い教養と高度な専門的知識・技能を身につけ、諸課題を発見・探究・解決する能力を育む。豊かな人間性と倫理観を身につけ、向上心をもって自ら困難に立ち向かう態度を養う。地域における活動に積極的に関わり、社会の発展に貢献できる行動力を養う。グローバルな視野をもち、国際社会の発展に貢献できる実践的な能力を育む。(鹿児島大学)」を掲げている。

加えて、山口大学憲章には「基礎的・学術的研究及び社会が直面する課題の克服と解決に役立つ研究を重視し、総合大学の特性を活かし、先進的かつ長期的な視野に立った研究を進め、その成果を社会に還元する」、鹿児島大学憲章には「地域の要請に応える研究を展開するとともに、普遍性を求める研究活動を推進し、世界水準の研究拠点をめざす。」という研究目標を掲げている。

山口大学と鹿児島大学は、共同獣医学部を形成し、獣医学教育の方法と内容を国際水準のものとするべく、EAEVEによる認証取得に向けて教育改革を推進している。次のステップとして、国際認証教育を教授された共同獣医学部卒業生のための国際水準の卒後教育を提供する共同獣医学研究科設置が緊要である。世界先端的な獣医学研究を推進し、生命・研究への高い倫理観を備えた先導的獣医学教育・研究者の養成と、地域・国際社会における多様な獣医学的課題解決に求められる高度な知識・技能・実務経験を備えた獣医学専門家及び獣医療人の養成が、新たな共同獣医学研究科に課せられた任と言える。

(2) 設置の目的

【教育理念と人材養成】

(資料②) 山口大学・鹿児島大学による共同教育の理念 参照)

山口大学と鹿児島大学は、「生命科学の中核をなす動物生命科学研究を推進し、人類と動物との共生環境社会を科学的に考究し、動物生命倫理を通じて命の尊厳を学び、豊かな人間地球社会の創生に貢献する」ことを基本理念として共同教育課程を設置している。両大学が目指す EAEVE 認証は、学部卒業生に対しても、学士課程教育を補い強化するための

Advanced Postgraduate Degree Program として、研究者養成を目的とする PhD プログラムに止まらず、獣医専門職、認定医・専門医プログラム、及びインターンシップ等、獣医師への多様な国際社会ニーズに対応した高度な卒後教育を提供することを求めている。したがって、本共同獣医学研究科の教育理念を、「世界先端的な獣医学研究を推進し、高い生命倫理と研究者倫理を備えた先導的獣医学教育・研究者の養成を通じて国際水準の獣医学教育の発展と深化に寄与し、又は高度獣医学専門家としての学識と研究能力を有する指導的獣医療人を輩出して地域・国際社会の獣医学的課題の解決を図り、以て人間地球社会の発展に貢献する。」とし、具体には「次代の獣医学教育・研究者の養成に止まらず、高度獣医学専門家としての学識・技能・実務能力を身につけた指導的獣医療人を輩出して、豊かな人間地球社会の発展に貢献する」ことを企図する。

研究者養成プログラムにおいて、国内外研究機関研修や学会発表等を通じて先端的な学術研究を体感させて各自の研究を遂行し、学位授与にあたっては国際学術誌への公表を義務化し、世界トップレベルの獣医学研究を推進する。また AAALAC International (国際実験動物ケア評価認証協会 Association for Assessment and Accreditation of Laboratory Animal Care International の略) 認証制度、及び CITI (Collaborative Institutional Training Initiative の略) Japan Program を通じて高い生命倫理と研究者倫理の醸成を促すとともに、特別講義・演習を通じて教育者・研究者としての幅広い知識と教養、論理的思考を修得させる。これに実験動物医学専門医、病理学専門家、または臨床専修医としての理論と実践力を教授する高度獣医学専門家養成プログラムを他の獣医学系大学院に先駆けて構築し、教育理念の達成を図る。

具体的には、以下の人材養成を行う。

- 1) 豊かな人間性と生命・研究への高い倫理観を備え、世界先端的な専門知識と技能を身につけた先導的獣医学教育・研究者の養成。
- 2) 動物生命科学研究を实践し諸課題を解決するための探究心と独創性を備えた獣医学研究者及び高度獣医学専門家の養成。
- 3) 応用獣医科学分野における先端的知識と技能を備えた獣医学研究者及び高度獣医学専門家の養成。
- 4) 高度動物医療の先端的知識と技術を備えた臨床獣医学研究者及び指導医的人材となる獣医療人の養成。

【修了後の進路や経済社会の人材需要の見通し】

(共同獣医学研究科学生確保の見通し等を記載した書類 参照)

国内の全獣医系大学においては、我が国の獣医学教育モデル・コア・カリキュラム、及び参加型臨床実習を自大学の教員で実施できる体制を構築すべく、大学院における獣医系教員の養成に一層力を注ぐことが求められている。「獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」(以下「協力者会議」という。)においては、「大学院の充実に関する議論の際も、獣医師養成を目指す学部段階の教育を国際的な水準に到達させることが強く意識され、大学院教育を充実させるべき理由として第一に挙げられたのが、教育体制の整備、

なかならず十分な数の教員を確保することの重要性」が議論されている。

国立研究開発法人科学技術振興機構 JREC-IN Portal からの提供データによると、平成 23～27 年度の農学・動物生命科学分野の大学教員（助教相当）／研究員／ポストドク求人数は年平均 56.0 人であり、協力者会議が示した全国獣医系大学院修了者の大学・研究機関研究職就職者数の年平均 36.5 人（平成 21～24 年度、修了者数 477 人の 30.6%にあたる 146 人が大学・研究機関研究職に就職）を大きく上回っていることから、この分野における研究者需要は未だ高いことが見込まれる。

JREC-IN Portal からの提供データでは民間企業からの研究者求人数は非常に少ない（年平均 2.8 人、全体の 5%）一方で、協力者会議が示したデータでは年平均 52.8 人（全大学院修了者の 44.3%）が企業等（開業獣医師、公務員、民間会社等）に就職している。すなわち、企業等においては社員を社会人学生として大学院に入学させ、修了後も前職に復帰させる傾向が高いことがうかがわれる。これと同様に、同協力者会議が示した大学院修了者の 25.2%は留学者修了生の割合に相当しており、留学者の大学院修了生も母国で活躍する国際的な人材需要となっている。

山口大学・鹿児島大学共同獣医学研究科における入学定員は、山口大学 6 人、鹿児島大学 6 人（合計 12 人）と設定している。JREC-IN Portal からの提供データによると、山口県及び鹿児島県における獣医系大学院修了者が応募対象となる研究者求人数の年平均はそれぞれ 4.2 人及び 3.8 人となっている。本共同獣医学研究科修了者のうち 30%に相当する各大学 2 人が大学等の研究職を志望すると仮定した場合、各県における研究者求人数は志望者数を上回ることが見込まれる。また、大学等での研究職志望者を除く 4 人は、社会人または留学者の修了者に相当するため、修了後は勤務先または母国に戻って活躍する人材需要と考えられる。したがって、過去の山口大学大学院連合獣医学研究科の実績と同様、本共同獣医学研究科の修了者は全て就職できると見込まれる。

（3）中心的な学問分野

山口大学は、広島や福岡などの大都市部を背景に、伴侶動物の二次診療に特化し、附属動物医療センターの伴侶動物診療症例数は、国公立獣医系大学の中でも東京大学動物診療センターを筆頭に、国内で 3 番目の多さである。国内の獣医系大学の中では診療設備の中に高度画像診断装置である CT や MRI 装置を逸早く導入し、各種診断技術の確立とともに、腫瘍のトランスレーショナル研究等、先進的な治療法の開発に取り組んでいる。また、平成 21 年度からは中高温微生物研究センター病原微生物部門を設置し、寄生体の診断法の開発、ウイルス感染症の出現予測、食品由来感染症の感染ルートの解明等に取り組んでいる。さらに西日本の三つの獣医系大学（鳥取大学、山口大学、鹿児島大学）から構成される山口大学大学院連合獣医学研究科（博士課程）の基幹校であり、生命機能及びその制御に関する研究が活発である（動物感染症国際研究拠点とトランスレーショナルリサーチ拠点）。

鹿児島大学は、大規模農場、農業共済組合、家畜保健衛生所、食肉衛生検査所等と連携して、家畜や島嶼野生動物の感染症制御、食品の安定供給と安全性確保、及び産業動物獣医療に関する先進的な研究を実践できるフィールドを有している。肉牛、養豚、及び養鶏

農場において家畜を直接対象とする共同研究プロジェクトが盛んであり、産業動物獣医学の先進的な研究成果が地域の活性化に極めて重要と認識されている。越境性動物疾病の侵入を監視・制御する国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門九州研究拠点が鹿児島市に配置され、大学との教育・研究交流も長年活発である。南九州の畜産を越境性動物疾病の脅威から守ることを目的に平成23年に設置された越境性動物疾病(Transboundary Animal Disease : TAD)制御研究センターは、高病原性鳥インフルエンザ等の動物感染症のリスクを抱える出水市、鹿児島県及び環境省と連携して、疾病拡大抑制に貢献している。附属動物病院には、小動物診療センターのみならず、牛・馬の二次診療施設である大動物診療センターと軽種馬診療センターを設置し、さらに平成28年度からは大隅半島の産業動物診療拠点となる大隅産業動物診療研修センターを加え、産業動物獣医療全般に関する研究材料も幅広く、かつ豊富である。

(4) 教育上の到達目標

(資料③ 共同獣医学研究科の教育上の到達目標 参照)

山口大学と鹿児島大学は、大学憲章に謳う地域に貢献する基幹大学として、地理的・社会経済的特性を活かした先進的な獣医学研究の世界への発信、及び次代を担う先端獣医学研究者及び先導的獣医学専門家の養成に資する共同獣医学研究科を目標とする。「**獣医科学コース**」では、連合獣医学研究科の実績を礎に世界先端的な共同研究を促すとともに、新たな研究者養成プログラムを編成して、我が国における欧米水準の獣医学を担う次世代の研究者養成を目指す。「**獣医専修コース**」では、PhD取得に向けた研究指導に加えて、**実験動物の健康と福祉に寄与する実験動物医学専門医、病性鑑定の立場から疾病制御を担う病理学専門家、あるいは高度かつ専門性の高い獣医療を研鑽する臨床専修医制度を企図する実践的教育プログラムを編成して、欧米の獣医専門医に比肩する水準の先端獣医療人を養成すること**を目標とする。修業期間中に、日本実験動物学専門医または日本獣医病理学専門家としての資格認定取得規定に準じた教育内容、及び研究科独自に設定した臨床専修医(小動物外科学等)プログラムを特別専修科目(高度獣医学専門家養成プログラム)として履修させる。(特別専修科目の詳細は、本文中、3.教育課程の編成の考え方及び特色、(2)教育課程の特色、共通科目：特別専修科目 参照)。

本共同獣医学研究科では、欧米水準の幅広い獣医学的知識と技能を身につけた獣医学士課程修了者の求める多様な進路選択に対応するとともに、欧米水準の獣医学士課程を修了していない獣医師・獣医学研究者に対しても総じて、専門的技術と能力を研く高度獣医学専門家(及び獣医療人)養成プログラムを提供する。

(5) 共同獣医学研究科を設置する教育上の必要性

山口大学大学院及び鹿児島大学大学院は、両学則において、「学術の理論及び応用を教授研究しその深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い文化の進展に寄与する」ことを目的としており、博士課程は、「専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務

に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養う」と謳っている（参考「学校教育法第九十九条及び大学院設置基準第四条」）。また、大学基準協会が定め改訂した獣医学に関する大学院基準では、その理念と目的に「大学院は獣医学の理論及び応用を教授する機関であるとともに学術研究の中核的機関でもある、教育面では研究を重視するとともに実践・実務能力を身につける教育も考慮する、技術革新の加速化・生涯学習・社会の進展等を背景に獣医学領域での実践の最前線で活躍している獣医職の再教育需要は増大しており多様な制度を適用して門戸を開く必要がある」、その教育研究に関する組織に「獣医学研究科においては研究者・教育者養成と高度の専門性を有する職業人養成との両面を担うので、組織の構成においてもそれぞれの目指す教育研究活動が十分実施できるよう独自の工夫が重要となる」と述べている。すなわち、我が国の大学院獣医学研究科博士課程は、獣医学の philosophy（「哲理、論理、倫理」）を育み、生命科学と応用動物科学を網羅する先端的な研究を通じて、教育・研究者及び高度専門家を養成し、人類の福祉と豊かな地球共生社会の発展・深化を先導する一翼を担っている。

平成 24 年 4 月に設置された山口大学・鹿児島大学共同獣医学部は、「生命科学の中核をなす動物生命科学研究を推進し、人類と動物との共生環境社会を科学的に考究し、動物生命倫理を通じて命の尊厳を学び、豊かな人間地球社会の創生に貢献する」を基本理念に、我が国の獣医学教育改革を牽引している。すでに両大学では共同獣医学部では、我が国の獣医学教育においてこれまでに実施されていない「全ての学部学生が、獣医師が担う全職務と獣医療が対象とする全動物種に関する少人数制ハンズオン実習、及び一年間にわたる参加型臨床実習を履修する」ことを可能とし、平成 30 年 3 月には欧米型の実践的獣医学教育を受けた学士（獣医学）の第一期生が誕生する。

獣医学の学士課程教育を発展・強化するための共同獣医学研究科の学問分野は国際水準の獣医学教育研究に対応する必要がある、獣医学及びその学際領域において網羅的でなければならない。そのために、両大学の立地環境と地域性並びに国際交流基盤に基づいて、特徴的な教育研究資源を 2 大学において共有した大学院教育及び研究を行う。具体的には、伴侶動物臨床獣医学や公衆衛生学を強みとする山口大学と産業動物臨床獣医学や動物衛生学を特色とする鹿児島大学に、各校特有の教育研究連携機関を加えて、基礎獣医学、応用獣医学、及び臨床獣医学の学問分野を網羅する。卒業教育プログラムの一つとして、山口大学大学院連合獣医学研究科において培われた獣医学研究者養成プログラムを発展させた新たな博士課程教育プログラム（英語教育、研究者倫理、生命倫理、論文作成指導等）を提供する。また、各大学に特徴的な教育研究環境を活かし、応用・臨床獣医学に関する専門家となる実験動物医、病理学専門家、臨床研修医・専修医、及びインターンシップ等、国際水準の獣医学教育が求める多種多様な社会ニーズに対応できる高度獣医学専門家及び獣医療人を養成する専修教育プログラムを展開する。

2. 研究科、専攻等の名称及び学位の名称

(1) 研究科及び専攻の名称

山口大学：「山口大学大学院共同獣医学研究科獣医学専攻（Yamaguchi University, Joint

Graduate School of Veterinary Medicine, Major of Veterinary Medicine)」

鹿児島大学：「鹿児島大学大学院共同獣医学研究科獣医学専攻（Kagoshima University, Joint Graduate School of Veterinary Medicine, Major of Veterinary Medicine）」

理由

山口大学と鹿児島大学は、共同で大学院教育を行う「共同獣医学研究科」を各大学に設置し、「共同獣医学研究科獣医学専攻」の教育カリキュラムを共同で実施する。本研究科の名称は、日本で初めて設置された共同学部で習って、また世界的に見ても2つの異なる組織が融合し一つの教育課程を実施する際に「Joint」が使用されることから、「Joint Graduate School」の英語表記を用いている。

(2) 学位の名称

山口大学大学院共同獣医学研究科獣医学専攻及び鹿児島大学大学院共同獣医学研究科獣医学専攻の課程を修了した場合、「博士（獣医学）、PhD in Veterinary Science」、の学位が授与される。

理由

学位記には、山口大学大学院共同獣医学研究科獣医学専攻、及び鹿児島大学大学院共同獣医学研究科獣医学専攻の課程を修了したことを記載した「博士（獣医学）」の学位記が、両大学長の連名で授与される。

3. 教育課程の編成の考え方及び特色

(1) 教育課程の編成の考え方

(資料④ 共同獣医学研究科獣医学専攻の教育コース 参照)

共同獣医学研究科では、両大学の立地環境と地域性に特徴的な教育研究資源を活用した教育課程を編成する。山口大学では伴侶動物獣医学及び公衆衛生学に関連した特徴ある教育プログラムを、鹿児島大学では産業動物獣医学及び動物衛生学の特徴ある教育プログラムを相互提供して、大学院教育の質の向上と学問領域の拡大を図る。

上記を実現するために次の2コースを設ける。

1) 獣医科学コース

基礎獣医学、応用獣医学、及び臨床獣医学を配し、先進的な研究を通じて我が国における次世代の欧米水準の獣医学教育を担う高度な研究者養成コースである。

2) 獣医専修コース

「新時代の大学院教育／平成17年9月中央教育審議会」や「平成26年度獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」における提言を勘案し、実験動物の健康と福祉、動物実験倫理、動物実験施設管理を担う実験動物医学専門医、高度な病理学的診断の知識と技術を修得して病性鑑定や疾病診断を通じて公衆衛生獣医学や臨床獣医学領域で活躍する病理学専門家等の高度獣医学専門家、及び先端・高度な動物医療を担う指

導者としての獣医療人を養成するコースである。

(資料⑤ 共同獣医学部と共同獣医学研究科における教育課程の関係図 参照)

いずれのコースも共通の入学試験（成績証明書並びに外国語、専門科目及び口頭試問からなる学力検査の結果を総合評価する。）によって選抜を行い、学生は入学時にコース選択を決定する。獣医専修コースから獣医科学コースへの転コースに制限はないが、獣医科学コースから獣医専修コースへの転コースには、各専門医／専門家としての認定試験の受験資格となる一定の修業期間を大学院の就学期間内に満たす場合に限り可能となる。共同教育科目、専門教養科目、及び研究推進科目は両コースに共通の必修科目、先端実践科目と特別専修科目が選択必修科目となっている。獣医科学コースでは、先端実践科目（幅広い領域の学術集会における研究成果の発表、または所属大学の共同獣医学研究科以外の国内外研究機関での指導を単位認定する科目）を履修するのに対して、獣医専修コースは特別専修科目を選択しなければならない。特別専修科目は、専門医／専門家認定試験の受験資格要件である「専門家として必要な技能修得及び実務経験」を付与するとともに、学位論文の骨子となる研究論文を各専門医／専門家協会が指定する学会へ発表、及びレフリー制度の確立した指定学術雑誌に筆頭著者論文として公表することで単位認定を行う。すなわち、獣医専修コースは、各専門医／専門家としての実務を積み上げて各種受験資格を得るだけでなく、獣医科学コースと同様、専門家としての先進的研究を遂行して学位論文を作成しなければならない。修了判定には、両コース共に、同一の修了要件単位数の修得と学位論文の提出を求める。

教育課程には、共通科目とコース科目を設けている。

1) 共通科目

獣医科学コース及び獣医専修コースに共通した2つの科目群（共同教育科目 14 単位、専門教養科目 3 単位）と、各コースに選択的な先端実践科目または特別専修科目（3 単位）から構成され、いずれも両大学の教育研究資源を活かして体系的な履修を可能とする。

① 獣医科学コース

先端実践科目（学術集会における研究成果の発表、あるいは所属大学の共同獣医学研究科以外の国内外研究機関での指導を単位認定する科目）を選択履修する。両大学の立地環境を活かして国や地方の研究機関並びに海外の教育研究機関等の連携協力を仰ぐ。これらの科目を体系的に履修させる指導体制を充実し、学生が履修する専門分野の基礎的素養の涵養を図り、さらに自らの研究の社会的意義付けを意識させる内容とする。

② 獣医専修コース

特別専修科目（専門医または専門家資格認定試験受験資格の条件となる「特定の学術分野における学会発表及び科学雑誌への公表」を求めるとともに「専門家として必要な技能及び実務経験」を付与する科目）を選択履修する。国内に整備された各種専門医資格の認定に求められる実践的能力を培うための授業科目として、獣医科学コー

スにおける共通科目の先端実践科目に代わって履修する。

2) コース科目

研究指導教員が開講する共同教育科目の特別講義と研究推進科目である特別演習・実験からなる(計 10 単位)。共同教育科目及び研究推進科目は、両大学の教員が開講する各研究部門に関連した講義、演習、実験科目を通じて、専門性の高い授業を行う。専門教養科目は、博士課程において高度な獣医学の技術と知識を修得する際に、必ず身に付けなければならない研究者としての行動規範、倫理、知的財産の管理、及び英語力について、学部教育をさらに発展させた授業を行う。

授業形態は、講義(対面講義、メディア講義、ビデオ・オン・デマンド、E-ラーニングシステム等)、演習(ゼミ方式、プレゼンテーション、アクティブ・ラーニング等)、実験(ラボワーク、クリニカルワーク、フィールドワーク等)、実践(学術集会発表、学術集会参加、国内外研究機関での研究指導等)とする。学士課程において共同獣医学部で修得した獣医師として備えるべき必須の知識と技術をさらに発展させるために、講義ではより高度で最先端の獣医学的な知識を幅広く修得させるとともに、研究者としての倫理観を成熟させるように編成した。演習及び実験では、学生が目指す研究分野をより深く探究することに加えて、他者に表現する能力を身に付けるように編成している。実践では、研究成果を学術集会や学術雑誌に発表・公表し、さらに所属大学の共同獣医学研究科施設以外の国内外研究機関における研究指導等を通じて研究領域を広く発展させるように編成した。以上より、学生が自立的にさらに高いレベルでの研究及び博士論文作成に取り組む一方で、両大学の教員が連携を強固にして学生の研究活動を多面的にサポートする体制をとる。

特別専修科目(3 単位)では、獣医専修コースの学生が、山口大学共同獣医学部に附設する獣医学国際教育研究センター(iCOVER: International Center of Veterinary Education and Research、先端実験動物研究施設を含む)、総合病性鑑定研究施設(iPaDL: Integrated Pathology and Diagnosis Lab)及び動物医療センター、鹿児島大学共同獣医学部に附設する動物病院(小動物診療センター、大動物診療センター、軽種馬診療センター、及び大隅産業動物診療研修センターから構成)、TAD制御研究センター、及び総合動物実験施設が所管する最先端の実験検査機器並びにフィールドを十分に活用できる体制を整え、実践・研究活動を支援する。

また、学部からの進学者及び卒業後実務経験のある社会人獣医師(大学院設置基準第14条特例を実施。「項目10」参照。)を入学者として想定したカリキュラムとなっており、修了要件単位数は30単位以上、そのうち10単位以上は相手大学開講科目の単位を取得するものとする。

(2) 教育課程の特色

(資料⑥ 教育コース(コース科目)参照)

【共通科目：共同教育科目】

共同教育科目は、両大学の教員が開講する講義科目を通じて、専門とする学問領域以外の幅広く高度な獣医学的な知識を修得させ、高度な研究者及び優れた獣医学専門家として

の人材養成を図る。この授業科目を履修することにより、共同獣医学部の卒業者は、獣医学教育モデル・コア・カリキュラム及びEAEVE認証の基準に即し、国際的通用性と信頼性を有する共同教育課程で修得した知識をさらに深める。また、共同獣医学部以外の卒業生、留学生、社会人学生においては、博士課程の研究者及び高度獣医学専門家としての知識を補完することができる。

【共通科目：専門教養科目】

専門教養科目は、学部教育において修得した生命及び獣医倫理観や基礎的な英語力を発展させるための授業を行う。この授業科目を履修することにより、高度な技術と知識を修得する際に必ず身に付けなければならない研究者としての行動規範、倫理、知的財産の管理、国際的な通用性を有する英語力について、学部教育をさらに発展させたものを身につけることができる。

【共通科目：先端実践科目】

先端実践科目は、獣医科学コースのみが履修する科目であり、研究をさらに広く高度に発展させるために、学術集会における研究成果の発表、あるいは所属大学の共同獣医学研究科以外の国内外研究機関での指導を単位認定する。第二副指導教員（相手大学の副指導教員）の研究室における研究指導も申請可能であり、社会人学生に関しては職場での特別な業務研修や獣医師としての卒後教育としての技術指導も認定可能とする。この授業科目を履修することにより、学生は幅広い視野を持った高度な研究能力や国際的に活躍するための実践的な能力を身につけることができる。

【共通科目：特別専修科目】

特別専修科目は、獣医専修コースのみが履修する科目であり、獣医学専門家及び獣医療人養成のために、山口大学ではiCOVER、iPaDL及び動物医療センター、鹿児島大学では総合動物実験施設、TADセンター、及び附属動物病院において、国内に整備された各種専門医資格の認定に求められる実践的な能力を培う。以下、目標とする専門家資格取得によって内容の異なる高度獣医学専門家養成プログラムとなっており、各学会における発表等の実績評価も含んでいる。

実験動物医学専門医資格取得のために、日本実験動物医学専門医協会が定める認定審査（資格審査と認定試験）に合格することを目指す。研究科在学中には、資格審査基準（獣医師免許を保有し、出願時に3年以上継続して日本実験動物医学会会員として実験動物医学専門医資格単位基準を履修すること）を満たすための特別専修科目（実験動物医学専門医養成プログラム）を設定する。山口・鹿児島両大学は、AAALAC International認証に対応できる動物実験施設を有しており、同施設における実験動物医学専門医となるための実務を履修させることができる強みがある。具体的には、同専門医協会による認定試験の出題分野となる実験動物（小動物ならびに中・大動物）の解剖学、生理学、感染症学、麻酔科学、発生工学、及び動物福祉学における基本的図書の理解を深めるとともに、動物実験施設における実験動物の獣医学的ケアの実務経験を積む。また、同専門医協会及び日本実験動物医学会の主催するシンポジウムならびにウェットハンド研修会に規定回数（2回）

以上参加させる。また学位論文の骨子となる研究論文は、同専門医協会が指定する学会、及びレフリー制度の確立した学術雑誌に筆頭著者論文として公表させる。特別専修科目の履修後、認定試験を受験して実験動物医学専門医資格を取得する。この資格は、大学における実験動物学における教育者としてだけでなく、創薬等を行うライフサイエンス企業において安全性試験等のために行われる動物実験を担当できる専門獣医師として、社会ニーズが非常に高く、獣医学に特殊性のある資格となっている。同専修コースは、特別専修科目履修後に認定試験の受験資格を得ることができ、同試験に合格すれば、修了時に博士の学位と実験動物医学専門医資格の両方を取得できるという有利なコースである。

日本獣医病理学専門家協会会員資格取得のために、日本獣医病理学専門家協会が定める会員資格認定試験受験ガイドラインにしたがって、受験資格を満たすための特別専修科目を構成する。認定試験受験のためには、獣医病理学に関する専門的研究または専門的職業に3年以上従事しなければならないことから、研究科在学中の特別専修科目において病理診断の実務及び研究を実施させる。具体的には、同専門家協会による資格試験の基準となる獣医病理学、毒性病理学、免疫病理学、分子病理学の基本的な知識の取得および過去3年間の関連する学術論文の理解とともに、病理診断に必要な様々な知識と能力を評価するための鏡検試験に対応できる病理組織診断の能力を培い、その経験を深める。同専門家協会規約に定める研究及び研修歴に加えて、指定された研究会や同協会主催セミナーに規定回数（3回）以上参加させる。学位論文の骨子となる研究論文は、レフリー制度の確立した学術雑誌の獣医（実験動物学及び毒性学を含む）病理学分野に関する筆頭著者論文として公表させる。特別専修科目を履修した後、認定試験を受験して日本獣医病理学専門家協会会員資格を取得する。この資格は、臨床獣医学における病理診断医として求められるだけでなく、食肉検査学等の応用獣医学における、マクロ病理学の標準化・高度化、製薬・創薬における実験病理・毒性病理等の基礎獣医学にも寄与することが期待される資格である。同専修コースは、特別専修科目履修後に認定試験の受験資格を得ることができ、同試験に合格すれば、修了時に博士の学位と病理学専門家資格の両方を取得できるという新たなコースである。

臨床獣医学における専修医養成のための特別専修科目では、研究科在学期間中に両大学の附属動物医療センター及び動物病院において臨床専修医としての動物医療を行うことを求める。具体的には、獣医外科学、獣医麻酔学、獣医画像診断学、獣医病理学、獣医内科学、救急医療の専修医教育プログラムを構築し、各診療科が設定する履修項目にしたがって、日々の診療活動を自己研鑽の証拠となるポートフォリオに積み上げる。獣医外科学分野においては、大学院在学期間中に、日本小動物外科専門医協会が定める日本小動物外科専門医レジデントプログラムへの参加資格となる一般臨床経験に止まらず、レジデントプログラムが求める外科診療科における軟部組織外科や整形外科の手術症例担当及び執刀、麻酔・病理・画像診断の症例の基準に相当する内容を提供する。また学位論文の骨子となる研究論文は、同専門医協会が指定する学会、及びレフリー制度の確立した学術雑誌に筆頭著者論文として公表させる。研究科修了によって博士の学位を取得した後、さらにレジデント期間を経て、認定試験を受験して日本小動物外科専門医資格を取得する。レジデントプログラムに参加している臨床医や大学の研修医等が、専修コースへ修学することによ

って、学位取得と専門医資格取得に向けて研究室と動物病院でのワークを両立させ、目標到達できる新たな卒後教育プログラムとなっている。専門医制度は、欧米の獣医学教育において常備された卒後教育システムである。

(資料⑦ 獣医専修コース (例、臨床専修医) 参照)

【コース科目：研究推進科目】

研究推進科目は、学生が目指す研究領域において、研究推進のための高度な専門的知識と技術を修得する。この授業科目を履修することにより、学生は多方面からの指摘や意見を取り入れてそれまでの研究内容を「振り返る」ことを行いながら、研究をさらに発展させ、研究指導教員と協力しながら博士論文を作成できるようになる。獣医科学コースでは、各大学の関連研究部門に所属する教員による指導の下、基礎獣医学、応用獣医学、または臨床獣医学研究を推進し、生命科学から医学・獣医学界に及ぶ幅広い研究領域に公表できるように成果をまとめる。一方、獣医専修コースでは、指導医となる教員の下、専門医／専門家としての認定要件となる実験動物学、獣医病理学、または特定の臨床獣医学分野（外科学、内科学等）における先進的研究を推進し、各専門医／専門家協会が指定する学会及び学術雑誌に公表できるように研究成果をまとめる。なお、コース科目には研究指導教員の特別講義の履修も含まれる。またこの特別講義は、共同教育科目と同様に、メディア授業形式で行う、あるいはビデオ・オン・デマンドやE-ラーニングシステムによる受講を可能とする。

4. 教員組織の編成の考え方及び特色

共同獣医学研究科は、共同獣医学部における教員組織との整合性をとるとともに、西日本・南日本地域における獣医学専門行政の維持、課題解決事案等へ貢献することを鑑み、教育研究資源及び人的資源に基づいて国際通用性の高い教育研究組織を企図した。ライフサイエンスを基軸に生命機能科学を中心とした基礎獣医学分野を担当する「生体機能学部門 (山口大学) / 基礎獣医学部門 (鹿児島大学)」(以下、生体機能学／基礎獣医学部門)、南日本地域からアジア展開をみせる医動物・病原体ネットワークを網羅的に究明する微生物フロンティア科学と越境性疾病や人獣共通感染症の防圧制御を中心に展開する感染症制御学を統合した応用獣医学分野を担当する「病態制御学部門 (山口大学) / 病態予防獣医学部門 (鹿児島大学)」(以下、病態制御学／病態予防獣医学部門)、ヒトと動物の福祉に貢献する動物臨床科学の新規展開と臨床獣医学の専門性を枢要とする先端臨床比較医科学、及び食資源の安全性と安定供給のための産業動物臨床を発展・展開させる動物資源生産医科学からなる臨床獣医学分野を担当する「臨床獣医学部門」という、三つの教育研究部門に編成した。各部門に所属する主指導教員は、「獣医科学コース」の研究者養成プログラムを担当する。「獣医専修コース」では、各種専門医学会の指導医資格を有する主指導教員が、所属部門に相応した研究者養成プログラムを行うとともに、実験動物学、獣医病理学、臨床獣医学等における専門医、専門家、認定医等を目指した技術、知識、及び実務経験を

付与する高度獣医学専門家養成プログラムを提供する。

(1) 研究対象学問分野と教員配置

共同獣医学研究科の教育課程を担当する教員組織には、山口大学共同獣医学部（動物医療センター教員を含む）、及び鹿児島大学学術研究院獣医学系（附属動物病院及びTAD制御研究センター教員を含む）の専任教員が参画する。平成30年4月の開設時において、山口大学37名、鹿児島大学38名（合計75名）の専任教員を基盤として、研究・教育指導に十分な教員数を確保することになっている。

（資料⑧） 連合獣医学研究科から共同獣医学研究科への教員組織の移行図参照）

山口大学大学院連合獣医学研究科における山口大学及び鹿児島大学の教員組織である、基礎獣医学講座（主指導・指導教員17名）、病態・予防獣医学講座（同教員20名）、臨床獣医学講座（同教員25名）を基盤（合計62名：山口大学31名、鹿児島大学31名）として、共同獣医学研究科では、「生体機能学／基礎獣医学部門（主指導・指導予定教員14名）」、「病態制御学／病態予防獣医学部門（同教員数22名）」、「臨床獣医学部門（同教員21名）」の三部門（合計57名：山口大学26名、鹿児島大学31名）に再編する。連合獣医学研究科における補助教員である助教（基礎獣医学2名、病態・予防獣医学7名、臨床獣医学5名、計14名）は、共同獣医学研究科では計18名（生体機能学／基礎獣医学部門1名、病態制御学／病態予防獣医学部門7名、臨床獣医学10名）まで増員される。内容、人員ともにバランスの取れた三つの教育研究組織を中心とした体制をとり、各分野において十分な大学院教育・研究を指導できる専任教員体制を整える。

共同獣医学研究科では、連携機関の参加により教育体制を更に強固なものとする。山口大学では中高温微生物研究センター、創成科学研究科、自治体研究所との連携により生体機能学部門及び病態制御学部門の教育研究機能を、また医学系研究科、獣医師会、民間動物病院、NOSAI山口との連携により臨床獣医学部門を強化する。鹿児島大学では連合農学研究科、医歯学総合研究科、理工学研究科、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門との連携により基礎獣医学部門及び病態予防獣医学部門の、また獣医師会、自治体研究所、日本中央競馬会競走馬総合研究所、鹿児島NOSAIとの連携により臨床獣医学部門の教育研究機能を強化する。

(2) 中心となる研究分野と研究体制

共同獣医学部を担う教員組織と共同獣医学研究科の教員組織には接続性が担保されており、より高度な教育研究を有機的に行える組織編成となっている。本共同獣医学研究科が目指す人材養成に対応し、以下の研究部門を編成する。

（資料⑨） 共同獣医学部と共同獣医学研究科の教員組織の関係図 参照）

【生体機能学／基礎獣医学部門】

山口大学では、獣医解剖・獣医発生学、獣医薬理・毒性学、生体システム科学・生化学に関する教育研究を、鹿児島大学では、獣医解剖学、行動生理・生態学、薬理学、分子病

態学、実験動物学、ゲノム制御学研究に関する教育研究を推進してきた実績を有している。主指導予定教員である山口大学の教員5名と鹿児島大学の教員8名には、遺伝子、ペプチド・タンパク、細胞、組織、器官研究分野において世界先端的な生命機能の発見と制御に関する研究に実績のある教員を数多く含んでおり、異分野との先進的な共同研究にも活発に取り組んでいる。両大学の教員が協力して生命機能科学研究に取り組む「基礎獣医学研究プログラム」を提供し、次代の獣医学の基礎生物学を支えるライフサイエンティストを養成する。主指導教員は、それぞれが専門とする研究推進科目（基礎獣医学特別講義、特別演習、特別実験）を開講するとともに、所属大学の指導教員1名と相手大学の主指導教員1名を副指導教員として、学生の研究及び学位論文作成の指導を行う。

【病態制御学／病態予防獣医学部門】

山口大学では、山口大学中高温微生物研究センター病原微生物部門を中心に細胞内寄生体の宿主侵入・増殖機構の解明及び新興感染症の診断・予防・治療法と発生予測に関する教育研究を推進してきた実績を有している。鹿児島大学では、TADセンターを中心に、地方自治体、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門九州研究拠点、国立感染症研究所等との機能連携を通じて、高病原性鳥インフルエンザ、豚流行性下痢、豚コレラ等の早期診断と拡大制御に資する研究に取り組んでいる。山口大学に8名と鹿児島大学に8名の主指導予定教員を配置する病態制御学／病態予防獣医学部門では、病原微生物学、獣医衛生学、寄生虫病学、感染症学を中心とした微生物フロンティア研究、及び動物衛生学や公衆衛生学が関与する感染症制御研究を主題にした「応用獣医学研究プログラム」を提供する。主指導教員は、それぞれが専門とする研究推進科目（応用獣医学特別講義、特別演習、特別実験）を開講するとともに、所属大学の指導教員1名と相手大学の主指導教員1名を副指導教員として、学生の研究及び学位論文作成の指導を行う。

【臨床獣医学部門】

臨床獣医学部門では、山口大学に6名、鹿児島大学に9名の主指導予定教員を配置している。伴侶動物臨床獣医学については、山口大学において獣医内科学、臨床病理学、獣医外科学、獣医放射線学、腫瘍発生学、及び再生医療学のトランスレーショナルリサーチに関する教育研究が、鹿児島大学においては、遺伝病、神経病、泌尿器病、腫瘍性疾患、及び運動器病に関する教育研究が展開されてきた実績を有している。共同獣医学研究科では、山口大学の教員が主体となって、伴侶動物の加齢関連疾患、生活習慣病、悪性腫瘍等の病態、診断及び治療研究等の先端臨床比較医科学を主題とした「臨床獣医学研究プログラム」を提供し、動物臨床獣医学と医科学との比較研究を牽引する。産業動物臨床獣医学については、山口大学において動物発生工学、産業動物内科学、及び外科学の総合臨床学に関する教育研究を、鹿児島大学では牛の発生工学、牛・馬・豚の呼吸器病・消化器病・繁殖疾患、及び馬の運動器病に関する教育研究を展開してきた実績を有している。共同獣医学研究科では、鹿児島大学の教員が主体となって、食用動物資源生産学を主題とした「臨床獣医学研究プログラム」を提供し、食料・経済動物資源の生産と疾病管理に関する世界先進的な研究を牽引する。主指導教員は、それぞれが専門とする研究推進科目（臨床獣医学特別講義、特別演習、特別実験）を開講するとともに、所属大学の指導教員1名と相手大学

の主旨導教員 1 名を副指導教員として、学生の研究と学位論文作成の指導を行う。

各種専門医学会の指導医資格を有する主旨導教員は、「**獣医専修コース**」の指導医として高度獣医学専門家養成プログラムを担当する。このコースでは、実験動物の健康・福祉、病性鑑定・病理学診断、あるいは高度獣医療等に関する先端的な見識と技術を身につけた獣医学専門家を養成する。実験動物医学専門医または獣医病理学専門家協会の資格を有する主旨導教員が、資格取得を目指した教育プログラム（特別専修科目）を構築し、専門家としての技能を付与する。伴侶動物においては山口大学共同獣医学部附属動物医療センター、鹿児島大学附属動物病院小動物診療センター、及び指導機関として認定される民間動物病院との機能連携を通じて、伴侶動物臨床における幅広い診療経験を得る臨床専修医プログラムを提供し、国内の臨床獣医系の学会が認定する伴侶動物の専門獣医師（専門医、認定医）資格取得に求められる知識と技能を研究科修業期間内に修得させる。産業動物臨床においては山口大学共同獣医学部附属動物医療センターと鹿児島大学共同獣医学部附属動物病院大動物診療センター、軽種馬診療センター、及び大隅産業動物臨床研修センターが中心となって、地方獣医師会や NOSAI との機能連携を通じて、産業動物の高度専門獣医師としての知識と技能を付与する教育プログラムを構築する。指導教員が所属する牛診療、馬診療、豚診療等の診療ユニットにおいて、研究科在籍中に診療活動を経験させ、専門的な産業動物臨床医としての知識・技術を修得させる。

（3）教員の年齢構成

平成 30 年 4 月、本共同獣医学研究科設置時における教育課程を担当する専任教員の数は、山口大学は 37 名、鹿児島大学は 38 名であり、その年齢構成は、山口大学では、30 歳代 11 名、40 歳代 14 名、50 歳代 11 名、60 歳代 1 名、鹿児島大学では、30 歳代 8 名、40 歳代 17 名、50 歳代 12 名、60 歳代 1 名となっている。完成年度（平成 33 年度）末には、山口大学は、30 歳代 5 名、40 歳代 14 名、50 歳代 11 名、60 歳代 7 名、鹿児島大学は、30 歳代 4 名、40 歳代 14 名、50 歳代 15 名、60 歳代 5 名となる。両大学共に、設置から完成時まで 40～59 歳が主体となる指導教員組織であり、大学院における教育研究水準の維持向上、教育研究の活性化、研究指導及び高度な専門獣医師養成には支障がなく、バランスの取れた構成となっている。

国立大学法人山口大学職員就業規則第 19 条において、「職員の定年は、満 60 歳とする。ただし、大学教育職員等は満 65 歳とする。」及び「定年退職日は、定年に達した日以後における最初の 3 月 31 日とする。」とされている。また国立大学法人鹿児島大学職員就業規則第 20 条において、「職員の定年は、満 60 歳とする。ただし、労務職員にあつては満 63 歳とし、教授、准教授、講師、助教及び助手並びに特例教員にあつては満 65 歳とする。」及び「定年による退職の日（以下「定年退職日」という。）は、定年に達した日以後における最初の 3 月 31 日とする。」とされている。

表 1. 専任教員の年齢構成（単位：人）

研究科設置時（H30. 4. 1）				研究科完成時（H34. 3. 31）			
年齢	山口大	鹿児島大	合計	年齢	山口大	鹿児島大	合計

30～39	11	8	19
40～49	14	17	31
50～59	11	12	23
60～65	1	1	2
合計	37	38	75

30～39	5	4	9
40～49	14	14	28
50～59	11	15	26
60～65	7	5	12
合計	37	38	75

5. 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件

(1) 教育プロセスの明確化

本共同獣医学研究科では、基礎生命科学の教育研究を实践する「生命機能学／基礎獣医学部門」、疾病の疫学と制御研究を担う「病態制御学／病態予防獣医学部門」、先端的な獣医療に重きを置く「臨床獣医学部門」の三部門を基盤にして、次代の獣医学研究者を輩出するとともに、実験動物医学、病理学、臨床獣医学の実務・実践教育を通じて高度獣医学専門家及び獣医療人を養成する。そのため、以下の授業方法・単位、履修指導、研究指導、修了要件、学位論文審査体制、及び公表方法等を設定する。

なお、在学期間に関しては大学院設置基準に基づき、優れた研究業績を上げた者については、3年以上在学すれば足りるものとし、標準修業年限の4年未満での修了も可能とする。また、本共同獣医学研究科は、獣医療系の職場や動物衛生・公衆衛生行政等の職場などで経験を積む社会人についても積極的に受け入れることとしているため、大学院設置基準に基づき、教育方法の特例（いわゆる14条特例）を実施する。具体的には、休日、夜間及び集中講義を最大限に活用した時間割設定、学生の勤務・生活形態を考慮した履修指導や研究指導を行う。

(2) 授業方法・単位

学生は、共同獣医学研究科の教育課程において、30単位以上を修得し、加えて博士論文を作成した上で、最終審査に合格することによって、博士（獣医学）の学位を授与される。共同教育科目（講義）、専門教養科目（講義）、先端実践科目（演習）、特別専修科目（演習）、研究推進科目（演習、実験）を編成し、30単位以上のうち10単位以上は相手大学の単位とする。

【共通科目：共同教育科目】

共同教育科目（計14単位）として、主指導教員及び両大学の副指導教員の特別講義以外から選択して履修する。両大学で合計すると44の特別講義が開講されており、所属大学で開講する授業を3科目（6単位）及び相手大学で開講する授業を4科目（8単位）履修しなければならない。これらの授業科目は、使用言語を英語主体として授業の履修はメディア授業形式あるいはビデオ・オン・デマンドやE-ラーニングシステムによる受講を可能とする。授業回毎に事前・事後学習の課題を提示して、最終課題を含めてすべてを学生が提出することで評価する。

【共通科目：専門教養科目】

専門教養科目（計3単位必修）として、「研究者行動規範特論（山口大学）」、「知的財産特論（山口大学）」、「専門科学英語スキル」各1単位を設ける。中でも「専門科学英語スキル」については、英語の四技能（「読む」「聞く」「書く」「話す」）を総合的に修得できるように、座学と実践形式を融合させた授業様式であり、大学院教育の国際的な通用性及び信頼性の向上に重要な授業であり、社会人学生の受講を考慮して集中授業として開講する。

【共通科目：先端実践科目】

先端実践科目（計3単位）は、獣医科学コースのみが履修する科目であり、「プレゼンテーションスキル」、「学術情報収集スキル」、「機関研修スキル」各1単位を設け、学術集会への積極的な参加と発表、他の研究機関や第二副指導教員の研究室における実験等について、学会からの発表・参加証明書、あるいは研修時のポートフォリオの提出等によって成績評価を行う。「プレゼンテーションスキル」及び「学術情報収集スキル」の評価はポイントの積算で行い、学術集会について、国際／国内／規模等によりポイントを決定して学生に明示する。

【共通科目：特別専修科目】

特別専修科目は、獣医専修コースのみが履修する科目であり、「特別専修スキル」（3単位）を各大学開講科目として設ける。学会等の獣医学の学術団体による専門医制度、認定医制度、専門家協会会員資格制度に規定された学術集会での発表や学会誌への投稿、動物実験の管理、病理診断、臨床症例の実務等を、教員の指導の下、実践させる。

【コース科目／研究推進科目】

学生は、主指導教員が開講するコース科目としての特別講義（1科目2単位）及び両大学の副指導教員が開講するコース科目としての特別講義（2科目4単位）を必修として履修する。さらに、研究推進科目から、主指導教員が開講する特別演習（1科目2単位）及び特別実験（1科目2単位）を履修する。

【授業の方法】

本共同獣医学研究科においては、共同獣医学部設置に伴い整備された遠隔講義システムを利用することによって、履修のための大学間の移動等にかかる学生の経済的負担が過度にならないよう配慮する。教員・学生を集めて行う集中講義、学生を相手大学や連携機関等へ派遣して行う集中実習等も含めて、両大学において教員と学生が対面で行う授業、または遠隔講義システム等のメディアを用いた授業の方法を取り入れる。

1) 特別講義

特別講義は、主指導教員が有する専門的知識を講義する授業科目であり、必修科目（所属大学4単位、相手大学2単位）及び選択科目（所属大学6単位、相手大学8単位）とし、各教員が開講する科目を3年次終了までに履修する。ただし、前期・後期のいずれに開講するかは教員が指定できる。対面授業形式、メディア授業形式、ビデオ・オン・デマンド

及びE-ラーニングシステムにて授業を実施する。

2) 特別演習

特別演習は、学生が目指す研究領域の指導を目的とした演習科目であり、主指導教員が開講する特別演習を必修科目（2単位）とする。アクティブ・ラーニング授業科目であり、ゼミ方式を進めてプレゼンテーションやコミュニケーション能力を高度なものにする。

3) 特別実験

特別実験は、論文作成のための実験とは別に、学際的研究の指導を目的とした実験科目とし、主指導教員が開講する特別実験を必修科目（2単位）とする。研究室内でのラボワークによる実験技術、附属動物病院でのクリニカルワークによる高度な診断・検査技術、民間農場等でのフィールドワークによる高度な診断・検査技術を修得させるものであり、主指導教員が担当する。

(資料⑩ 履修モデル 参照)

(3) 履修指導・研究指導・修了要件等

1) 履修指導

養成すべき人材を見据え、学生が持つ学修実績や経験等のバックグラウンドと学生自らが描くキャリアデザインを活かすよう、また定められた教育課程において適切な科目を選択・履修できるように、教員によるきめ細やかな履修指導を行う。そのため、学生と主指導教員等による綿密な意見交換を随時実施する。

<履修モデル1、獣医科学コース>

共同獣医学研究科に入学し、獣医科学コースに所属して、生体機能学／基礎獣医学部門、病態制御学／病態予防獣医学部門、または臨床獣医学部門の教員が担当する研究者養成プログラムを履修して、研究者及び教育者を目指す。生体機能学／基礎獣医学部門によるプログラムでは、獣医学の基盤を担う基礎獣医学に関する高度な専門知識と研究能力を培う。病態制御／病態予防獣医学部門によるプログラムでは、感染症、動物衛生及び公衆衛生等の応用獣医学に関する高度な専門知識と研究能力を磨く。臨床獣医学部門によるプログラムにおいては、伴侶動物及び産業動物の臨床獣医学に関する先進的な研究を推進する。

<履修モデル2、獣医専修コース>

共同獣医学研究科に入学し、獣医専修コースに所属して、動物実験や病理学分野のリーダーになる獣医学専門家、及び伴侶動物や産業動物の高度獣医療を実施する先端獣医療人を目指す。獣医科学コースの研究者養成プログラムに加え、動物実験指導、病理診断あるいは疾病予防指導が行える高度な知識と技術を有した獣医学専門家、伴侶動物及び産業動物の先進的な獣医療に求められる高度な臨床的知識・技能・実務経験を付与するための高度獣医学専門家養成プログラムを履修し、認定学会が求める研究論文作成、学会・セミナー発表等を行う。

2) 研究指導

研究指導については、所属大学から1名を主指導教員として配置し、両大学から第一（自大学の副指導教員）及び第二副指導教員（相手大学の副指導教員）として各1名を配置することにより行う。副指導教員の研究部門は主指導教員と同一でなくとも良く、入学時に学生が持つ学修実績や経験等のバックグラウンドと、学生自らが描くキャリアデザイン及び履修指導教員の意見も踏まえつつ、主指導教員の指導により入学時に決定する。上記3名の研究指導教員の研究部門は規制しないため、学生の希望に合わせた綿密な指導が実現できる。学生は自身の研究テーマや研究計画の策定から遂行、論文等の作成に至るまでを、共通科目やコース科目の履修を通じて綿密な研究指導の下に行うことができる。

3) 修了要件

学生は、共同獣医学研究科の教育課程において、30単位以上を修得し、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び論文の内容や専門分野に関する口述ないし筆記試験に合格することを要件とする。最終審査に合格することによって、博士（獣医学）の学位を授与される。なお、30単位以上のうち、10単位以上は相手大学の単位とする。

（4）学位論文の審査体制及び公表方法等

博士の学位の授与を受けようとする者は、学位論文と、所定の学位申請書に必要書類を添え、研究科長を経て、学長に提出する。学長は受理した学位論文の審査を、山口大学・鹿児島大学研究科委員会（仮称）（以下、研究科委員会）に付託する。審査は、公正さと透明性に配慮して実施しなければならない。

（資料①）学位論文の審査体制 参照

1) 学位論文の審査

研究科委員会は大学院を担当する山口大学及び鹿児島大学の教授又は准教授のうちから5名の審査委員（主査1名、副査4名）を選出し、学位論文審査委員会を組織する。ただし、学位論文審査委員会には必ず両大学の教員を含むものとする。研究科委員会が特に必要と認めた場合は、各大学の他研究科、国内外の他大学若しくは研究所等の教員または研究者等を審査委員として選出することができる。審査委員の主査は、原則として、主指導教員以外から選出し、審査委員は、学位論文の審査及び最終試験又は学力の確認に関する事項を行うものとする。

2) 最終試験

最終試験は、学位論文の内容を中心として、これに関連する授業科目又は専門分野等について口頭又は筆答（筆記）で行うものとする。学位論文提出による学位申請者にとっては、学力の確認を行う。学位論文の内容を基にして専攻の学術に関する口頭または筆頭（筆記）による試問を通じて、各大学における大学院の博士課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認する。各大学における大学院博士課程の所定の標準修業年数以上在学し、所定の単位を修得して退学した者が、研究科が定める年限内に学位の授与を受けようとする場合においては、学力確認のための試問を免除する。

3) 審査及び試験の報告

審査委員は、学位論文の審査及び最終試験又は学力の確認を終えた後、学位論文内容の要旨、審査及び最終試験又は学力確認の結果の要旨を研究科委員会に報告するものとする。

4) 可否の議決等

学位論文の審査及び最終試験又は学力確認を基に、可否に関する議決は、審査委員の報告に基づいて研究科委員会が行う。議決を行うには、研究科委員会委員の二分の一以上が出席し、かつ、出席者の四分の三以上の同意を得なければならない。

5) 審査結果の報告

研究科委員会において、博士（獣医学）の学位を授与すべき者と議決したときは、研究科長は、学長及び共同獣医学研究科協議会に報告するものとする。

6) 論文要旨等の公表

博士の学位を授与したときは、当該博士の学位の授与に係る論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨をインターネットの利用等により公表するものとする。

7) 学位論文の公表

博士の学位を授与された者は、当該博士の学位の授与に係る論文の全文、または要約したものをインターネットの利用等により公表するものとする。

(5) 研究の倫理審査体制

研究実施に当たっての倫理審査は、原則として当該研究を実施する各大学の規定に従い行うこととするが、本共同獣医学研究科に係る倫理審査委員会等への届出内容等については共有管理を行い、山口大学と鹿児島大学の合議体により、研究内容の倫理性について確認を行う体制を構築する。また、学生に対しては必修科目として共通科目「研究者行動規範特論」を開設し、研究計画書及び倫理審査申請書等を作成する前に研究倫理等の重要性を履修させる。なお、倫理違反が判明した場合は、直ちに研究を中止するとともに、被害を調査し、適切に対処する。

(6) 学外実習等の実施

1) 実習科目に係る学生の費用負担

実習科目に係る費用負担については、原則として学生の自己負担とする。ただし、特に海外実習の場合は経済的負担が多くなることから、その負担を軽減するため、関連する共同研究プログラム、及び要件に合致する留学奨学金制度等への応募を奨励する。また各大学における留学や学外実習等の経費を支援する制度等の活用も促す。

2) 実習科目における危機管理等

実習科目の科目担当教員及び研究指導教員から、派遣先の国情理解、情報収集の徹底、予防接種等の案内、海外旅行保険への加入、健康診断の受診、健康管理の方法、危機発生時の連絡体制と基本的対処・対応等について情報提供を行い、指示・指導を徹底する。また有事の際は、学生の所属大学における規程やマニュアル等に従い、即時に危機管理対応

を図り、併せて、相手大学、学生の受入機関、在外公館、その他関係機関等の協力を得ながら必要な対応を図る。なお、実習期間が比較的長期にわたる場合は、実習科目の科目担当教員及び研究指導教員と受入機関との間で、実習内容等について事前に調整を十分に行い、必要に応じて現地指導者を特定する。派遣中は学生と科目担当教員及び現地指導者との密な連絡指導を通じ、学生の状況について学業面だけでなく安全・健康状況についても把握し、問題を未然に防ぐ。

6. 施設・設備等の整備計画

共同獣医学研究科を設置する山口大学と鹿児島大学は、以下の施設・設備等を活用し、共同で利用する。

(1) 校舎等施設の整備計画

平成 29 年度以降の山口大学及び鹿児島大学の施設整備計画において、共同獣医学部及び本共同獣医学研究科で活用する計画のある施設について記載している。

【山口大学】

なし。

【鹿児島大学】

- 1) 学内における畜産獣医学教育・研究フィールドの整備（実施計画策定中）：グローバル化に対応した畜産・獣医学教育・研究システムを構築することを目的として、農学部附属入来牧場における実験的なフィールド研究が可能となるよう、牧場管理棟改修及び畜舎改築事業を計画している。既存の畜舎を、動物・従事者・学習者のバイオセキュリティに十分配慮して、教育研究に必要な動物種及び数を維持管理できる産業動物管理システム教育研究棟へと整備する。農学・獣医学連携に止まらず、IPE 機能（Inter-professional Education：専門職連携教育）や民間の情操教育・食育・生涯学習フィールド機能を充実し、畜産学を通して地域課題に根差した教育研究施設とする。牧場管理棟は、フィールド教育の実習計画に合わせた食事・入浴等の健康衛生指導管理ができる宿泊施設としての機能を高める。大動物を研究対象とした獣医科学及び獣医専修コースプログラムで活用する。

(2) 校舎等施設の利用計画

本共同獣医学研究科の講義、演習、及び実験については、既存の共同獣医学部の講義室等を活用することで対応する。共同獣医学部において平成 24 年度から実施してきた遠隔講義の実績を踏まえ、共同獣医学研究科の教育課程においても同システムを活用する。また学生の自習室についても、これまでも多数の大学院生を受け入れていることから、既存の研究室や自習室スペースを活用することで十分に対応可能である。建物内には有線及び無線 LAN 環境が整備されており、常時インターネットに接続することができる。具体的には、各大学において、以下の教室等を備えている。

【山口大学】

山口大学には、山口市と宇部市に3つの主要キャンパスがある。吉田キャンパス（敷地面積 712,896 m²、建築面積 53,786 m²、建築延面積 134,785 m²）は、山口大学の基幹キャンパスとして教育研究の中核を担っている。共同獣医学研究科は、共同獣医学部が位置する吉田キャンパスの東エリアの施設を利用するが、農学部（連合農学研究科、創成科学研究科）と一部共用となる。共同獣医学部単独で利用する建物の延床面積は 5,333 m²となる。山口大学大学院共同獣医学研究科が使用する講義室・実験室等は以下のとおりである。

- 1) 農学部・共同獣医学部本館（総床面積 9,661 m²）：農学部と共同獣医学部が共用している施設であり、4階建て鉄筋コンクリート構造である。共同獣医学部には遠隔講義システムを設置した3講義室があり、大学院での講義、演習にも利用し、鹿児島大学大学院と繋ぐ。大学院生が所属する主指導教員がいる10研究室ユニットが配置されており、大学院生の教育研究及び学位請求論文作成の場として提供される。その他機器分析室、冷凍庫保管室、講演会やセミナー等に利用できる会議室・セミナー室、事務部、学生ラウンジ等が配置されている。
- 2) 連合獣医学研究科棟（総床面積 1,890 m²）：農学部、共同獣医学部及び連合獣医学研究科が共用している施設であり、4階建て鉄筋コンクリート構造である。連合獣医学研究科が専ら利用している研究室等には大学院専任教員研究室（1研究ユニット）、遺伝子関連機器室、遺伝子組換え実験室、コンベンショナル実験室、細胞工学実験室、共用実験室、テレビ会議・セミナー用の会議室があり、引き続き共同獣医学研究科において活用する。配置される1研究室ユニットは、大学院生の教育研究及び学位請求論文作成の場として提供される。農学部と共同利用する2講義室と1セミナー室は、大学院生のための各研究室ゼミや各種講演会等に利用される。
- 3) 動物医療センター（総床面積 1,934 m²）：共同獣医学部附属施設である動物医療センターは鉄筋コンクリート構造の2階建ての施設である。1階部分（床面積 1,180 m²）は診療受付・事務室、薬剤庫の他に、伴侶動物用の6診療室と処置室、臨床検査室、X線室、CT室、MRI室、リニアック室、2手術室等が配置され、大学院臨床教育研究の場として提供される。2階（754 m²）は2研究室ユニットが配置されており、大学院生の教育研究及び学位請求論文作成の場として提供される。また、臨床実験室（延床面積 102 m²）は遠隔講義システムを整備しており、鹿児島大学への臨床獣医学の教育研究指導に活用する。その他、感染症隔離施設、研修医・動物看護師関連施設等が配置されている。24時間診療に対応できる体制にある。動物医療センター2号棟（延床面積 50 m²）は大動物用手術準備室、外科手術室、覚醒室からなり、入院施設を含め、いずれも大学院教育研究に利用される。
- 4) 獣医学国際教育研究センター（iCover）（総床面積 3,050 m²）：欧米水準の獣医学教育に対応した各種獣医学教育プログラムの開発を行うとともに、獣医学研究の促進と高度化を目指し、基礎研究から応用・臨床研究へ至る架け橋研究の育成と促進を図ることを目的とした施設である。当センターの1階から4階は、共同獣医学部の形態学系実習、機能学系実習、感染症学系実習を60人規模で実施可能なスペースや高度感染症

に関する教育研究が実施可能なスペースを有しており、より高度な教育プログラムを
実践できるようになっている。また、5～7階には、山口大学総合科学実験センター
の先端実験動物学施設（下記の4施設からなる）として、国際水準の実験動物飼育施設
を有しており、いずれも大学院教育研究に資するものである。本施設には1研究室ユ
ニットが配置されており、先端機器を活用した国際的に評価の高い大学院教育研究を
展開している。

形態学系実習室（428㎡）：解剖組織学、病理組織学等を行う60人規模の形態系実習室
を備え、バーチャル顕微鏡等のICT（情報通信技術、Information and Communication
Technologyの略）教育の実施が可能である。同システムを活用した大学院のICT演習や
実験だけでなく、講演会・セミナー等も実施できる。他に標本室（38㎡）、準備室（27
㎡）を備える。

生体機能学系実習室（428㎡）：生理学、薬理学、毒性学等、60人規模の機能系実習室
とセルソーターなどの高度実験機器を備えている。他にプログラム開発室（80㎡）及
び準備室がある。

感染症学系実習室（857㎡）：2フロアからなり、3階は8台の安全キャビネット等60
人規模のBSL2対応実習室を備え、4階はBSL3対応実験室を2室備えた高度感染症実習室
となっている。これまで、大学院では成し得なかったBSL3レベルの研究が実施可能と
なっている。

先端実験動物学施設（1,286㎡）：3フロアからなるマウス及びラット専用の飼育管
理施設として、300ケージ以上の実験動物飼育が可能である。本施設には、実習室と一
般動物室に、バイオハザード室、SPF飼育室を加え、一般動物実験から感染動物実験ま
での幅広い研究が可能である。また実験動物学教育研究の拠点として動物福祉に配慮
した国際認証の取得対応型施設であり、動物実験を扱う大学院教育研究の場として、
また獣医専修コースにおける実験動物医学の研究及び実務トレーニングに最適な施設
である。

- 5) **大動物教育研究棟**（総床面積243㎡）：附属農場内に位置する大学教育・研究施設であ
る。大動物臨床実習施設として、メディア双方向による鹿児島大学との遠隔大動物実
習・演習が可能となる設備を備えている。また専修教育・研究用施設として、生殖工
学システム機器を配備した実習室があり、臨床現場で実用化しているが、未だ少数の
診療所しか実施していない技術（受精卵移植関連技術）を実習することができる。さら
に先端技術（経膈採卵、体外受精及び体細胞クローン技術等）についても研究が可能
な施設となっており、大学院での産業動物臨床研究や獣医専修コースにおける繁殖技
術の開発に活用される。前室と資料置き場（82㎡）、採卵室（74㎡）、実習室（41㎡）
が主な施設である。
- 6) **総合病性鑑定研究施設（iPaDL）**（床延面積276㎡）：現有の解剖棟に隣接して鉄骨構造
の総合病性鑑定研究施設を新築した（平成29年3月）。本施設は家畜伝染病予防法の改
正に準拠し、検体動物の保管、受渡し等バイオセキュリティとバイオセーフティー
を考慮して、冷蔵室、冷凍室、教育用の標本保管室を設ける等、従事者や学習者の衛

生管理に配慮されている。また、解剖棟に隣接して焼却炉、緊急時の排水処理設備も設置されており、高いバイオセキュリティ機能を有する施設となっている。本施設には高度病体解剖実習支援システムが整備され、実習用解剖台、ステンレス作業台、大動物移動クレーン、大動物用ハンドリフト、ホルマリン貯留槽、オートクレーブ、冷凍庫、冷蔵庫等を設置するとともに、旧病理解剖室に既存の解剖用无影灯、ドラフトチャンバー等に移設する。病理認定医取得のためには、病理解剖技術は必須の手技であり、本施設での病理解剖の実施は重要な教育課程である。

【鹿児島大学】

鹿児島大学には、鹿児島市中心部に三つの主要キャンパスがある。郡元キャンパス（敷地面積 351,918 m²、建築面積 63,618 m²、延面積 187,130 m²）は、鹿児島大学の基幹キャンパスとして教育研究の中核を担っている。本共同獣医学研究科は、共同獣医学部が位置する郡元キャンパスの北東エリアの施設を利用するが、連合農学研究科及び農学部も一部共用となる。獣医学部単独で管理する建物の延床面積は 10,269.1 m²となる。

- 1) 農学部・共同獣医学部共通棟（総床面積 7,365 m²）：農学部と共同獣医学部が共用している施設であり、3階建て鉄筋コンクリート構造である。1階には、5講義室と3実験室に加え、農獣医共通の図書室、事務部（学務課）、交流スペース等が配置されている。2階には、4講義室、3実験室、4セミナー室に加え、学部長室、事務部（総務課）が配置されている。3階には、6講義室、1実験室、4セミナー室に加え、3会議室（教授会・学部運営会議・各委員会が開催される）が配置されている。3階部分の3講義室（各室 40～70 人収容規模）及び予備室（床面積計 307 m²）は獣医学部が管理する視聴覚教室であり、各講義室には山口大学共同獣医学部との双方向遠隔講義システムが設置されている。共同獣医学研究科のメディア講義科目は、これらの視聴覚教室で行われる。
- 2) 共同獣医学部 A 棟（総床面積 2,927 m²）：獣医学部の研究室が配置されている鉄筋コンクリート構造の4階建ての施設である。1階には、産業動物内科学分野の教員室及び実験室、解剖学特殊実習室、病理解剖学特殊実習室、電子顕微鏡室がある。2階には、伴侶動物内科学分野、画像診断学分野、及び寄生虫学分野の教員室及び実験室がある。3階には、公衆衛生学分野、動物微生物学分野、及び動物衛生学分野の教員室及び実験室、公衆衛生学・微生物学特殊実習室がある。4階には、組織病理学分野、解剖学分野の教員室及び実験室、組織学特殊実習室がある。組織学特殊実習室には、山口大学との双方向遠隔講義システムが設置され、解剖学と病理学関連の講義、演習、実験に活用する。
- 3) 共同獣医学部 B 棟（総床面積 1,346 m²）：獣医学部の研究室が配置されている鉄筋コンクリート構造の3階建ての施設である。1階には、獣医繁殖学分野の教員室及び実験室がある。2、3階には、動物病院専任教員の居室と実験室、E-ラーニング自習室、学生用の更衣室がある。また3階には、臨床病理学分野の教員室及び実験室がある。
- 4) 共同利用棟：鉄筋コンクリート構造の4階建ての施設（総床面積 1,970 m²）である。

この建物は全学共用施設であり、3、4階部分(916 m²)を共同獣医学部の研究室と附属 TAD 制御研究センターとして利用・管理している。3階には、分子病態学分野の教員室及び実験室と、BSE 実験室が配置されている。4階には、感染症学分野の教員室及び実験室がある。また1階には P3A 実験施設が整備されている

- 5) 総合動物実験施設(総床面積 2,980.65 m²):鉄筋コンクリート構造の6階建てであり、1階は大型動物を用いた実験・実習スペースとして、牛(2室)、馬(1室)、豚(2室)の飼育室を配置する。2階は中型動物の飼育スペースであり、ミニブタ、家禽、犬、猫の飼育室を配置している。3階は中型動物(2階で飼育される動物種)と小型動物(4階で飼育される)を用いた実験・実習スペースとなっている。4階は小型動物の飼育スペースであり、ウサギ、マウス・ラット等の飼育室と処置室を配置している。5階は実験動物学分野の教員室及び実験室と、全学共通の実験室となっている。6階には、行動生理生態学分野と薬理学分野の教員室及び実験室に加え、セミナー室を配置している。AAALAC International の認証(平成28年度受審)に対応できる実験動物施設であり、実験動物専門医取得を目指す獣医専修コースの教育に活用する。
- 6) 軽種馬診療センター(総床面積 636.45 m²):鉄筋コンクリート構造の3階建てであり、1階には処置スペース、X線室、倒馬室、手術準備室、ハイクリーン陽圧手術室、衛生室を備えている。2階には、臨床検査室、研修室(40名収容)、カンファレンスルーム、外科学、産業動物獣医学、獣医学教育改革室の教員室と実験室が配置されている。研修室には、山口大学との双方向遠隔講義システムが設置され、メディアによる講義及び演習科目の相互提供に活用する。
- 7) 大隅産業動物診療研修センター(総床面積:64.5 m²)の整備:鹿児島県の大隅半島は、国内屈指の畜産地帯であり、地域課題を解決し産業振興に資する畜産獣医学研究を行うために必要な材料の宝庫となっている。世界水準の獣医学教育認証取得に向けて構築・整備した鹿児島大学が、自治体、NOSAI 連鹿児島、獣医師会との間に構築した教育連携ネットワークを深化させ、畜産地・食料基地としての南九州の地域振興に資する産官学連携研究、及び国際的な視野をもって活躍できる人材を育成することを目的として、平成28年8月、鹿児島大学大崎活性化センター内に大隅産業動物診療研修センターを開業した。大崎町との共同事業で同活性化センターの改修を行い、教員、研究者、学生等が利用するにあたって安全性に配慮した宿泊施設を整備した。従事者・学習者のバイオセキュリティに十分配慮した獣医学教育研究拠点となっている。
- 8) 動物病院の整備:現存の動物病院の西側に鉄筋コンクリート構造3階建ての「小動物診療センター(総床面積 2,540 m²)(平成29年5月開業予定)」を増築する。1階部分は診療受付・事務室、薬剤庫の他に、伴侶動物用の診療室と処置室、X線検査室及び超音波エコー等の画像診断室、臨床検査室、ならびに内視鏡・歯科処置室、化学療法専用処置室が設けられている。また同フロアの一角には夜間診療ならびに感染症被疑症例の診察と処置を行う部屋も設置している。2階部分は手術室と術後の入院室、手術準備室ならびにICUユニットが配置されている。また症例検討室も設置されている。3階部分はスタッフ室、電子カルテ閲覧室、犬用入院室と猫用入院室があり、屋外に

はドッグランが配置される。これらは、獣医専修コースの小動物臨床専修医資格取得に向けた高度獣医学専門家養成プログラムにおいても利用する。既存の動物病院を全面改修して、鉄筋コンクリート構造2階建ての「大動物診療センター（総床面積1,483㎡）（平成29年4月開業予定）」を整備する。牛や小反芻獣を対象とした診療室、全身麻酔のできるX線検査・手術室、処置室ならびに入院用牛房が設置されている。大動物用及び小動物用の隔離診療施設、病理解剖室と病理関連実習室も配置される。2階部分には、関連分野の教員室及び実験室が置かれている。同センターでは、病理学等の高度獣医学専門家養成プログラムも実施される。

（3） 図書等の資料及び図書館の活用

山口大学では、共同獣医学部が配置されている吉田キャンパスを含めて三つのキャンパス（吉田、小串、常盤）に図書館を有している。各図書館では、各キャンパスに配置している学部及び大学院の学術分野における図書及び雑誌類を中心に体系的に収集整備し、利用者に提供している。図書館における蔵書の本数は、約160万冊（うち、外国図書約46万6千冊）、冊子体の学術雑誌約31,000種類、電子ジャーナルは約11,000種類（うち、外国の電子ジャーナル約6,000種類）を有している。また、その規模は、吉田キャンパス（総合図書館）が925席（床面積6,669㎡）、小串キャンパス（医学部）図書館が309席（床面積1,405㎡）及び常盤キャンパス（工学部）図書館が321席（床面積1,669㎡）である。開館時間は総合図書館が平日8時30分から21時45分、土・日曜日及び祝日は11時15分から18時45分、医学部図書館は平日8時30分から19時15分、土・日曜日及び祝日は13時15分から16時45分までであるが、申請すれば24時間利用可能である。工学部図書館の利用時間は、平日8時30分から21時45分、土・日曜日及び祝日は11時15分から18時45分となっている。

鹿児島大学では、共同獣医学部が配置されている郡元キャンパスを含めて各キャンパス（郡元、桜ヶ丘、下荒田）に図書館を有している。中でも郡元キャンパスにある中央図書館を中心に教育・研究に必要な学術資料を広い分野にわたり収集している。図書館における蔵書の本数は、約127万9千冊（うち、外国図書約37万冊）、冊子体の学術雑誌約43,000種類、電子ジャーナル約5,000種類（うち外国の電子ジャーナル約5,000種類）、視聴覚資料約8,000種類を有している。また、その規模は、中央図書館が910席（床面積12,697㎡）、桜ヶ丘分館158席（床面積1,980㎡）、水産学部分館（下荒田キャンパス）123席（床面積795㎡）である。開館時間は平日8時30分から21時30分まで、土・日曜日10時から18時までである。

なお、既存の共同獣医学部の学生においては、所属大学にかかわらず、両大学の図書館の利用を可能としており、共同獣医学研究科においても同様に取り扱うこととしている。

7. 既設の学部等との関係

（資料⑫ 共同獣医学研究科設置に係る学生定員の移行図及び改組前後の学生募集（配置）実施予定 参照）

山口大学では、既設の連合獣医学研究科（基幹校：山口大学、構成校：鹿児島大学、鳥取大学）の入学定員を4名に変更した上で、平成30年度まで学生募集を行う一方で、平成30年度に新たに共同獣医学研究科獣医学専攻を設置し、同大学共同獣医学部獣医学科の卒業生をはじめとする一般学生、及び西日本を中心とした行政機関からの社会人学生や留学生を受け入れる。また、既設の同大学大学院創成科学研究科との教育的連携やプロジェクト研究等の先端的な教育研究活動を有機的に行える体制が構築できる。

鹿児島大学では、平成30年度に新たに共同獣医学研究科獣医学専攻を設置し、同大学共同獣医学部獣医学科の卒業生をはじめとする一般学生、九州を中心とした行政機関や動物病院を含む企業等からの社会人学生、及び協定校からの留学生の受け入れを開始する。また、既設の同大学大学院連合農学研究科との獣医畜産学領域での教育・研究プロジェクト、あるいは大学院医歯学総合研究科及び大学院理工学研究科との先進的感染症制御研究プロジェクト等、先端的な教育研究活動を有機的に行える体制を構築する。

なお、山口大学大学院連合獣医学研究科は、平成30年度については、鳥取大学所属の教員による研究指導を希望する者のみを対象に出願が可能となるよう配慮する。平成31年度から学生募集を完全に停止することになるが、停止前年度（平成30年度）までに受け入れた学生が在籍する間は、鳥取大学との関係も含めて連合獣医学研究科の教育体制を維持する。山口大学大学院及び鹿児島大学大学院共同獣医学研究科は、岐阜大学及び鳥取大学が新設する獣医学系博士課程と双務的互惠学術交流協定を締結し、各研究科が得意とする専門分野を活かした連携を図る。具体的には、教育研究のための教職員及び学生の交流、共同研究プロジェクトの企画及び実施、相互理解を深めるための講演会やシンポジウムの企画及び実施等、について相互協議と同意に基づいて活動するものである。

8. 入学者選抜の概要

共同獣医学研究科は、共同獣医学科を持つ山口大学と鹿児島大学の2校の連携により、それぞれの大学に設置する修業年限4年の大学院博士課程である。なお、両大学はそれぞれ、連携大学院の制度を取り入れ、連携機関として、農業・食品産業技術総合研究機構、国立感染症研究所、日本中央競馬会競走馬総合研究所等と連携することにより、カリキュラムのさらなる充実を図ることとしている。

本共同獣医学研究科では、獣医学及び関連した科学分野の知識・技術を基盤に、我が国のみならず世界各国において生じている動物及び人の健康、公衆衛生並びに環境等に係る諸問題に対し、積極的に対応できる豊かな創造性と高度な研究能力を持ち、幅広い視野と高度な倫理観を有する人材の涵養を目指している。

入学定員は、山口大学6人、鹿児島大学6人とし、獣医学に関する十分な基礎知識と応用能力を備えた6年制学士課程卒業生（または、外国において学校教育における18年の課程を修了した者）のみならず、他分野の修士課程修了者、獣医学関連の職場で実務に携わっている社会人並びに外国人留学生等を広く受け入れる。入学時期は4月及び10月とする。

(1) アドミッション・ポリシー

共同獣医学研究科では、次のような人材を求めている。

- 1) 研究者としての正しい倫理観を有し、行動規範を遵守できる人。
- 2) 獣医学に関する十分な基礎学力、獣医倫理並びに技術を有している人。
- 3) 研究活動に必要な英語能力とコミュニケーション能力を有している人。
- 4) 研究課題への探究心と好奇心が旺盛な人。
- 5) 豊かな人間性と向上心を有している人。

(2) ディプロマ・ポリシー

共同獣医学研究科では、所定の期間在学して所定の単位を修得し、本研究科の人材養成目的に適う、以下の知識・能力を身につけた上で、学位論文の審査及び最終試験に合格したものに博士（獣医学）の学位を授与する。

- 1) 獣医学（動物）に関する最先端の科学技術の修得、及びそれらへの対応能力。
- 2) 生命の科学的理解と論理的思考に基づき、研究者あるいは高度専門家として、自ら問題意識を持ち、獣医学を取り巻く諸問題に対応または解決でき得る能力。
- 3) 獣医学・獣医療分野で研究の国際化に対応できる、実践的な英語及びコミュニケーション能力。
- 4) 社会で活躍できるリーダーとしての能力。

(3) カリキュラム・ポリシー

共同獣医学研究科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる人材を養成するために、共同教育科目、専門教養科目、先端実践科目、特別専修科目、研究推進科目を体系的に編成し、教育内容、教育方法、学習成果の評価についての方針を以下に定める。

【教育課程・教育内容】

- 1) 共同獣医学研究科の教育課程は、1～3年次に各科目の特別講義、特別演習、特別実験により博士としての教養と専門知識を身につけ、獣医学（動物）に関する最先端の科学技術を修得し、社会で活躍できるリーダーを養成する。
- 2) 得られた研究成果を基に、4年次に学位論文を作成する。これにより、生命の科学的理解と論理的思考に基づき、研究者あるいは高度専門家として、自ら問題意識を持ち、獣医学を取り巻く諸問題に対応または解決できる人材を養成する。
- 3) 「先端実践科目」はディプロマ・ポリシーの獣医学・医療分野で研究の国際化に対応し、実践的な英語及びコミュニケーション能力等を習得することを目的に設定した科目である。内容は「プレゼンテーションスキル」、「学術情報収集スキル」、「機関研修スキル」で構成されている。
- 4) 「特別専修科目」は、高度専門家として獣医学を取り巻く諸問題に対応または解決で

き得る能力を習得することを目的に設定した科目である。内容は、獣医学術団体による専門医制度、認定医制度、専門家協会会員資格制度に規定された知識、技術、実務等を、複合的に実施して実践させる「特別専修スキル」で構成される。

【教育方法】

- 1) 学生の主体的学びを推進するためにアクティブ・ラーニングを導入し、課題探求・解決学習及び実践的教育を行う。
- 2) 対面式／メディア形式授業あるいはビデオ・オン・デマンドや E-ラーニングシステムを活用した授業を行う。

【学習成果の評価】

- 1) 試験及びレポート等に基づき、学習成果の到達度を厳格に評価する。
- 2) 4年間の学習成果は、4年次までの修得単位数に加え、「学位論文」による総括的評価を行う。

(4) 出願資格

共同獣医学研究科博士課程に出願することのできる者は、次のいずれかに該当する者とする。

- 1) 大学における修業年限6年の獣医学を履修する課程を卒業した者（卒業見込みの者を含む）。
- 2) 大学における医学又は歯学を履修する課程を卒業した者（卒業見込みの者を含む）。
- 3) 外国において、学校教育における18年の課程を修了した者（修了見込みの者を含む）。
- 4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程を修了した者。
- 5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における18年の課程を修了したとされるものに限る）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者。
- 6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る）において、修業年限が5年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む）ことにより、学士の学位に相当する学位を授与された者。
- 7) 文部科学大臣の指定した者。
- 8) 学校教育法第102条第2項の規定により他の大学院に入学した者であって、共同獣医学

研究科において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者。

- 9) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学における修業年限6年の獣医学、医学又は歯学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達した者。

前項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する者であって、共同獣医学研究科の定める単位を優秀な成績で修得したと認めるものは、共同獣医学研究科の博士課程に入学することができる。

- 1) 大学における修業年限6年の獣医学を履修する課程に4年以上在学した者。
- 2) 大学における医学又は歯学を履修する課程に4年以上在学した者。
- 3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者（あるいは、本大学院入学までに修了見込みの者）。
- 4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより該当外国の学校教育における16年の課程を修了した者（あるいは、本大学院入学までに修了見込みの者）。
- 5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者。

（5）出願資格認定審査

以下に基づく資格により出願したい旨の申し出があった場合は、その者の出願書類を受理する前に、出願資格の認定のための審査を行い、その結果を、出願しようとする者に通知する。

文部科学大臣の指定した者。学校教育法第102条第2項の規定により大学院又は他の大学院に入学した者であって、大学院において、教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者。大学院において、個別の入学資格審査により、大学における医学、歯学、又は修業年限6年の獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で24歳に達した者。大学の医学、歯学又は獣医学を履修する課程に4年以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む）であって、当該研究科の定める単位を優秀な成績で履修したと認める者。

出願資格認定審査は別に定める申請書類及び面接試験により行う。ただし、提出書類の審査により出願資格を有すると認定された場合は、面接試験は行わない。

（6）入学者の選抜方法

共通のアドミッション・ポリシーに基づき入学者選抜を行うという考え方から、両大学間で選抜方法に大きな相違がないように、選抜方法と評価方法は可能な限り一致させる。学生は異なる大学を受験するが、試験日程や試験会場、及び試験の問題等については全て共通の入試方法により実施する。入学者選抜試験は、山口大学及び鹿児島大学において入

学試験委員会（仮称）を設置し、9～10月、及び1～2月に実施する。

一般入試は、成績証明書及び学力検査の結果を総合評価する。学力検査は、外国語（英語）及び専門科目（専攻分野に係る専門的な知識）並びに口頭試問（卒業論文又は修士論文等、及び研究計画書の内容を中心に行う）。外国語（英語）では、実用英語検定準1級、TOEIC 730点、TOEFL 550点と同等以上のスコアを持つ者は英語試験を免除する。

9. 14条特例による教育方法の実施（実習の具体的計画）

（1）目的及び必要性

本共同獣医学研究科では、地域教育研究資源の特性を活かした国際水準の獣医学教育・研究を展開して世界へ発信できる次代の獣医学研究者の養成と、高度獣医学への多様な社会ニーズに対応できる専門医獣医師（高度獣医学専門家）養成のための多様な卒後教育プログラムを提供する。そのために、獣医学分野における基礎研究や臨床に携わっている獣医師及び獣医学研究者である社会人を広く受け入れることが望ましく、継続しながら就学できる環境を提供するために、本共同獣医学研究科において大学院設置基準第14条に定める教育方法を実施する必要がある。

（2）修業年限

獣医学分野の博士課程であるため、標準修業年限は4年とする。在学期間は標準修業年限の2倍の年数を超えることができない。なお、在学期間は4年以上とし、当該研究科長が研究科委員会及び研究科協議会に諮り、優れた研究業績を上げたと認めた場合は、3年以上在学すれば足りるものとする。また、勤務状況等の都合により修業年限による修了が困難な場合は、研究指導教員と学生の綿密な打ち合わせのうえ、あらかじめ長期履修に対応する履修計画及び研究計画を立てることで、無理のない社会人学生の履修及び修了を担保する（「山口大学大学院長期履修学生規則第5条」、標準修業年限に1年又は2年を加えた年数。「鹿児島大学大学院学則第24条の3」、標準修業年限に2年を加算した期間の範囲内。）。

（3）履修指導及び研究指導の方法

研究指導教員は、履修計画について個別に学生の相談に応じ、随時面談等により指導・助言を行う。教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行う。研究指導においては、主指導教員に加えて副指導教員2名を配置し、研究指導体制の充実を図り、博士論文作成まで一貫した指導を行う。

（4）授業の実施方法

博士課程の授業において、教育方法の特例による履修を希望する学生については、研究指導教員が相談に応じ、夜間や休日等の特定の時間において履修計画に支障がないよう便

宜を図る。

(5) 教員の負担の程度

共同獣医学研究科では、夜間開講等の特例措置の授業を担当する教員については、専門業務裁量労働制の適用に基づき勤務時間振り替え等の措置をとり、過度な負担が生じないよう調整を行う。

(6) 施設設備等の利用や学生の厚生に対する配慮、必要な職員の配置

両大学それぞれの施設設備等（「6. 施設・設備等の整備計画」参照。）が利用可能であり、教育研究を行うに当たって、社会人学生に対して支障のない環境を整えている。

10. 2つ以上の校地において教育を行う場合の教員配置

山口大学・鹿児島大学大学院共同獣医学研究科による共同教育課程では、両大学のキャンパスにおいて大学院教育を行う。

（資料⑬ 授業実施体制 参照）

(1) 校地の配置

共同獣医学研究科における教育は、山口県山口市を校地とする山口大学と、鹿児島県鹿児島市を校地とする鹿児島大学において実施する。両大学校地は約 400km 離れているが、九州新幹線により約 2 時間で結ばれていることから、移動時間的なハンデは非常に小さい。また各共同獣医学研究科は、共同獣医学部で使用している教育施設・設備を共用することから、両大学における教育環境とその資源を共有することが可能となり、教育の充実が図られるとともに、今後整備される施設・設備も共有して有効利用することができる。

(2) 教員の配置

共同獣医学部と同様、山口大学と鹿児島大学にそれぞれ共同獣医学研究科が存在しており、所属する大学の専任教員が主体となって、大学院生の研究指導を行う。各共同獣医学研究科の専任教員は、平成 30 年 4 月の開設時には、山口大学 37 名、鹿児島大学 38 名の計 75 名で構成される。共通科目における共同教育科目及び専門教養科目（講義科目合計 17 単位）のうちの 10 単位とコース科目における研究指導教員による特別講義 2 単位が、メディア授業として大学間で相互提供される。これら講義科目は、ICT の一つである遠隔授業システムを用いて行われるため、教員及び学生の移動はない。先端実践科目では、学生が大学間あるいは連携研究機関との間を移動して対面で行うこともあるが、新幹線の利用や、集中講義等による訪問回数の減により、学生の物理的負担の軽減が図られる。

(3) 施設・設備の配置

共同教育課程の実施に当たっては、山口大学と鹿児島大学で 5 組の遠隔授業システムを

整備していることから、大学院生の校地間の移動等の負担軽減を図った教育体制を構築することができる。共同獣医学部の学生と同様に、共同獣医学研究科の大学院生は、所属大学と相手大学の両方における既存の施設・設備を利用することができる。さらに、図書情報サービス等については、各校地にいながら ICT を介して両大学の情報サービスを受けることができる等、これまで以上の恩恵を享受できる。

【遠隔講義システム】

(資料⑭ 遠隔授業システムの概要図 参照)

両大学に設置したインターネット専用回線 (SINET5) を通じて行うリアルタイム双方向性遠隔授業システムを利用することで、送信側の大学における対面式の講義と同じものをリアルタイムで受信側にて視聴できる。送信元の教員映像は講義資料と併せて受信側に送られる。送信側の教員は、受信側の学生の映像を見ながら講義を進めていく。教員と対面している学生の後方に設置した大型ハイビジョンディスプレイに受信側の学生が映し出されている。質問者は、その場で挙手するだけで、教員が学生用カメラ及びマイクを遠隔操作して質問者をクローズアップして対面で応答する。遠隔授業システムを用いた授業であっても送信側の学生にとっては対面授業科目の取扱いになり、受信側となったときだけがメディア授業の扱いとなる。高画質かつ高音質のシステムを使用するため、対面式の講義と遜色のない授業展開が可能となる。

【授業支援システム】

山口大学・鹿児島大学共同獣医学部教育で使用している Web マルチメディア LMS (Learning Management System の略) である Glexa (グレクサ) は、代表的な LMS である Moodle (ムードル) 同等の機能に加え、映像や音声をなどのマルチメディアを取り込み、学生と教員の対面を強く意識した E-ラーニングを可能としている。本共同獣医学研究科においても、Glexa を活用して、クラス・学生管理、教材・問題管理、試験・成績管理、会話・面接学習、協調学習、動画学習、モバイル学習を行う。授業前の重要事項や補講等の連絡も、一括メールを通じてクラス全員に送信することが可能となっている。校地外にいる大学院生に対してもストリーミング配信を使用して教員・学生間でのビデオチャットや授業・講義配信、あるいは受講した試験やテスト、レポートの採点を行うことができる。

(4) 時間割等の配慮

共同獣医学研究科の科目によっては、集中的に講義・実習が受けられるように時間割等を配慮する。

1.1. 管理運営

(資料⑮ 管理運営体制 参照)

本共同獣医学研究科は、山口大学と鹿児島大学にそれぞれ研究科委員会を設置する。研究科委員会は、専任教員から選定された主指導教員をもって構成され、大学院の教育研究に係る諸事項、主指導及び指導教員の人事に関する事項及び大学院生に関する事項等、各

大学の研究科管理運営に係る事項についての審議を行う。

また両大学の共同獣医学研究科全体の管理運営に係る重要な事項を協議するために「共同獣医学研究科協議会（以下「協議会」という）」を置く。協議会においては、以下の事項を協議する。

- 1) 共同教育課程の編成及び実施に関する基本的事項
- 2) 授業科目及びこれらに係る教員の配置
- 3) 研究指導教員の選定に係る事項
- 4) 入学者選抜の方針及び実施計画に関する事項
- 5) 大学院生の身分及び厚生補導に関する事項
- 6) 成績評価の方針に関する事項
- 7) 学位審査委員会の設置に関する事項
- 8) 学位の授与及び課程修了の認定に関する事項
- 9) 教育研究活動等の状況の評価に関する事項
- 10) 予算に関する事項
- 11) 共同教育課程の協定の改正もしくは廃止に関する事項、又は運用に関する事項
- 12) 広報に関する事項
- 13) FD推進に関する事項
- 14) その他両大学が必要と認めた事項

協議会は、各大学の研究科長、副研究科長、事務代表者（事務代表者は、協議事項のうち専ら教育課程に関する事項についての議決権を持たない）及びその他研究科長が特に必要と認めた者から構成され、原則として月1回テレビ会議システムを活用したネットワーク会議を行い、年度毎に各大学1回ずつの対面式会議を開催する等、両大学が密に協議をしながら運営できるようにする。なお、協議会での協議内容は、各大学の研究科委員会において報告・承認を得るものとする。事務組織は、各大学に共同獣医学研究科事務をそれぞれ置き、上記協議会と連携しながら、教員及び学生を支援し、円滑な共同獣医学部と共同獣医学研究科の運営に努める。

1 2. 自己点検・評価

(1) 実施体制

山口大学と鹿児島大学は、これまで、各大学において自己点検・評価を実施している。共同獣医学研究科においては、各大学に設置されている「国立大学法人山口大学評価委員会」及び「国立大学法人鹿児島大学企画・評価委員会」と連携して定期的に自己点検・評価を行い、結果は各大学に報告し、公表する。EAEVE や大学基準協会による獣医学に関する分野別第三者評価については、両大学に設置された「獣医学教育改革室」が中心となって、

共同獣医学部の自己点検報告書作成及び視察訪問に対応している。改革室は、現在までのところ学部教育に関する第三者評価に限定して機能しているが、中期目標期間の評価作業部会との連携によって研究科活動の点検と改善についても取り組むようになる。なお、両大学におけるこれまでの自己点検評価の実施体制、実施方法、評価結果の公表及び活用方法等については以下のとおりである。

【山口大学】

平成4年に「山口大学自己点検・評価委員会」を設置し、全学的な自己点検・評価の実施、評価システムの確立等に取り組んだ後、平成16年度には、国立大学法人化に併せて学内の評価体制の見直しを行い、担当副学長及び各部局の自己点検評価担当委員会委員長等から構成される「国立大学法人山口大学評価委員会（以下、評価委員会という。）」を設置した。その後、平成18年度に専任の教育職員を置く「大学評価室」や「大学評価実施会議」の設置、平成22年度に大学評価担当副学長の配置、平成24年度に「大学評価運営会議」への再編等の体制整備・見直しを行いつつ、各種評価（自己点検・評価、国立大学法人評価[第1期／平成16～21年度・第2期／平成22～27年度]、大学機関別認証評価[平成21年度・平成27年度受審]、専門職大学院認証評価[平成21年度・平成26年度受審]等）へそれぞれ対応してきたところである。そのうち自己点検・評価については、平成22年度から平成24年度にかけて、「教員活動の自己点検評価システム」、「組織活動情報集約システム」、「組織活動の自己点検評価システム」の3つのシステムを独自開発し、教員活動、組織活動、施策活動に関するデータを効率的に収集し、評価委員会が定める「教員の全学的自己点検評価実施要領」に基づき全学的に実施している。

【鹿児島大学】

平成4年に「鹿児島大学自己評価検討委員会」を設置し、全学的な自己点検・評価の実施、評価システムの確立などに取り組んだ後、平成16年度には国立大学法人化に併せて学内の評価体制の見直しを行い、学長を委員長とし、理事及び各部局長から構成される「鹿児島大学評価委員会」を設置した。平成17年度には「評価室」、平成19年度には「鹿児島大学評価専門委員会」を設置し、平成22年度には企画と評価をより密接に関連させるため、「企画・評価委員会」への再編等の体制整備・見直しを行いつつ、各種評価（自己点検・評価、国立大学法人評価[第1期／平成16～21年度、第2期／平成22～27年度]、大学機関別認証評価[平成19年度、平成26年度受審]、専門職大学院認証評価[司法政策研究科：平成20年度及び平成25年度受審、臨床心理学研究科：平成23年度及び平成28年度受審]、外部評価[平成20～21年度実施]等）へそれぞれ対応してきたところである。そのうち自己点検・評価については、「年度計画進捗管理システム」、「研究者情報管理システム」を活用し、教育研究活動等に関するデータを効率的に収集し、「国立大学法人鹿児島大学評価実施規則」に基づき、全学的に実施している。

(2) 実施方法、結果の活用・公表及び評価項目等

【山口大学】

第3期中期目標において、「大学の諸活動に係る自己点検・評価を行い、その結果を大学

の意思決定や戦略的な運営に活用する。」こと、また、「社会から求められている情報はもとより、大学の諸活動に係る情報を積極的に公表するとともに、学外関係者や地域社会のニーズに基づいた分かりやすい情報提供を行う。」こととしており、教育研究水準の向上や大学が掲げる理念・目的達成のため、教育研究活動等の状況について、自ら点検・評価を行い、その結果を公表することとしている。これまで、前述した「教員活動の自己点検評価システム」等の3つのシステムで収集したデータを活用して、自己点検評価活動の一つのプロセスとして、教員、教員組織、教育課程等に係る大学諸活動の現状と課題を分析し、改善に向けた取組みを推進することを目的に、平成24年度から「山口大学活動白書」（分野別版は平成26年度～）を毎年度作成し、ホームページを通じて学内外に公表している。

【鹿児島大学】

第3期中期目標において「大学運営評価の効率化と実質化を図るため、評価制度の見直しを行い、評価を実施する。」こと、また、「社会に開かれた大学としての使命を果たすため、大学の諸活動を積極的に広報する。」こととしており、教育研究の質の向上や組織運営の改善・強化につなげるため、教育・研究活動、社会貢献及び大学運営の状況について、自己点検・評価を実施し、その結果を公表することとしている。自己点検・評価制度の見直しとして、今後、前述した「年度計画進捗管理システム」、「研究者情報管理システム」で収集したデータを活用し、法人評価及び認証評価へ着実につなげるため、年度計画の実績等について全学の「自己評価書」を毎年度、部局等における教育研究の水準及び質の向上度の分析について「自己評価報告書」を3年ごとに作成し、ホームページを通じて学内外に公表する。

1.3. 情報の公表

両大学ともインターネット上に大学のホームページを設けており、大学の理念と中期目標や計画等の大学が目指している方向性を発信するとともに、カリキュラム、シラバス、学則等の各種規程や定員、学生数、教員数などの大学の基本情報を公開している。具体的な公表項目の内容等と公表しているホームページアドレスは以下のとおりである。

(1) 大学としての情報提供

- 1) 大学の教育研究上の目的に関すること。
- 2) 教育研究上の基本組織に関すること。
- 3) 教員組織、教員数、各教員が有する学位・業績に関すること。
- 4) 入学者に関する受入方針、入学者数、収容定員、在学者数、卒業者数、修了者数、進学者数、就職者数、その他進学就職状況に関すること。
- 5) 授業科目、授業方法、授業内容、年間の授業計画に関すること。
- 6) 学修成果に係る評価、卒業又は修了の認定基準に関すること。
- 7) 校地、校舎等の施設、その他学生の教育研究環境に関すること。

- 8) 授業料、入学料、その他大学が徴収する費用に関すること。
- 9) 大学が行う学生の修学、進路選択、心身健康等に係る支援に関すること。
- 10) その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果等）

以上に関する主な事項を掲載しているサイト

《山口大学》<http://www.yamaguchi-u.ac.jp>

《鹿児島大学》<http://www.kagoshima-u.ac.jp/about/>

(2) 各大学における情報提供

【山口大学】

大学の公式 Web サイトのほか、共同獣医学研究科の Web サイトにおいて掲載して、広く社会へ情報提供を行っていくこととしている。また既存の連合獣医学研究科 Web サイト及び広報誌等を継承して連携を図る。大学全体としては、総務部広報課が主にこれを担い、大学情報（教育研究成果、社会貢献、公開講座、産学官連携の成果など）の公開を推進している。共同獣医学部においては、Web ページ等を通じて、広く社会へ情報の提供を行っている。

1) 大学 Web ページを活用した情報提供

- ① ニュース
- ② イベント情報
- ③ 各学部及び大学院
- ④ 入試情報
- ⑤ 学生生活

2) 教育研究活動等の状況に関する情報の提供

(学校教育法施行規則第 172 条の 2 による)

http://www.yamaguchi-u.ac.jp/info/public_info/1338.html

① 大学憲章、教育研究上の目的

<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/info/18.html>

② 組織

http://www.yamaguchi-u.ac.jp/info/university_structure.html

③ 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

<http://www.epc.yamaguchi-u.ac.jp/curriculum.html>

④ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

<http://www.epc.yamaguchi-u.ac.jp/curriculum.html>

⑤ 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

http://nyushi.arc.yamaguchi-u.ac.jp/admission_policy/

⑥ シラバス

<https://www.kyoumu.jimu.yamaguchi-u.ac.jp/Portal/Public/Syllabus/>

3) 大学運営情報 <http://www.yamaguchi-u.ac.jp/info.html>

① 財務諸表 <http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~syukei/11zaimushohyou/16zaimushohyou.html>

② 認証評価・大学評価情報

http://committee.ue.yamaguchi-u.ac.jp/New_HomePage/ninnsyo-hyoka.html

③ 研究者倫理綱領 <http://www.yamaguchi-u.ac.jp/info/21.html>

④ 公的研究費の使用に関する行動規範 <http://www.yamaguchi-u.ac.jp/info/22.html>

⑤ 議事録

i. 役員会

http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~singi/gakugai_open/yakuinkai/top_yakuinkai_open.htm

ii. 教育研究評議会

http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~singi/gakugai_open/hyougikai/top_hyougikai_open.htm

iii. 経営協議会

http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~singi/gakugai_open/keiei/top_keiei_open.htm

4) 卒業生の進路情報 http://www.yamaguchi-u.ac.jp/campus/_4341.html

5) 在学生・キャンパスライフ等 <http://www.yamaguchi-u.ac.jp/student.html>

（全学教務日程、学生生活 Q&A、諸届出・証明書の交付等、学生寮、課外活動、課外活動施設等、補償制度、学長と学部学生との懇談会、学生便覧、学生生活安全ハンドブック、学生生活実態調査報告書、海外研修・留学、学費・経済支援、相談・問い合わせ、福利厚生施設、自主学習等）

6) 各部局、センター附属施設等の Web ページ情報

<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/faculty.html>

<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/institute.html>

7) 広報誌 YU information http://www.yamaguchi-u.ac.jp/info/_2718.html

山口大学「学報」 http://www.yamaguchi-u.ac.jp/info/_3120.html

大学案内 http://www.yamaguchi-u.ac.jp/info/_3639.html

【鹿児島大学】

大学の公式 Web サイトのほか、本共同獣医学研究科の Web サイトにおいて掲載して、広く社会へ情報提供を行っていくこととしている。具体的には大学本部に「広報室」を設置し、大学情報（教育研究成果、社会貢献、公開講座、産学官連携の成果など）の公開を推進している。共同獣医学部においては、Web ページや広報誌の発行等を通じて、広く社会へ情報の提供を行っている。

1) 大学 Web ページを活用した情報提供

- ① ニュース
- ② イベント情報
- ③ 各学部及び大学院
- ④ 入試情報
- ⑤ 学生生活

2) 教育研究活動等の状況に関する情報の提供

(学校教育法施行規則第 172 条の 2 による)

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/activity.html>

① 大学憲章、教育研究上の目的

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/kensyo.html>

② 組織

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/soshiki.pdf>

③ 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/education/dp-policy.html>

④ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/education/cl-policy.html>

⑤ 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/exam/ad-policy011.html>

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/exam/ad-policy021.html>

⑥ シラバス

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/education/gakubu-kouengaiyou.html>

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/education/in-kouengaiyou.html>

3) 大学運営情報

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/>

① 財務情報

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/zaimu.html>

② 認証評価情報

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/hyouka.html>

③ 研究者行動規範

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/kihan.html>

④ 大学評価情報

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/hyouka.html>

⑤ 議事要旨

i. 役員会 <https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/yakuinkai.html>

ii. 教育研究評議会 <https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/kennkyuuhyougikai.html>

iii. 経営協議会 <https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/keieikyougikai.html>

4) 卒業生の進路情報

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/job/sinrodata.html>

5) キャンパスライフ

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/education/>

(全学教務日程、学生生活 Q&A、諸届出・証明書の交付等、学生寮、課外活動、課外活動施設等、補償制度、学長と学部学生との懇談会、学生便覧、学生生活安全ハンドブック、学生生活実態調査報告書、九州地区国立大学共同研修施設、海外研修・留学、学費・経済支援、相談・問い合わせ、福利厚生施設、自主学習等)

6) 各部局、センター附属施設等の Web ページ情報

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/faculty/>

7) 広報誌 鹿大ジャーナル

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/kadaijournal.html>

鹿大だより (保護者向け) <https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/kadaidayori.html>

卒業生メールマガジン <https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/maga.html>

1 4. 教育内容改善のための組織的な研修

山口大学と鹿児島大学は、各大学において既に全学的に行われている学生及び教職員自身による授業評価とFD (Faculty Developmentの略) 研修会に参画し、授業内容の改善を図る。共同獣医学研究科設置後は、共同獣医学部と同様の授業改善プログラムを実施していく。共同獣医学部において教員資質の向上のために実施しているFD活動を研究科においても実施し、教育効果の向上に活用する。すでに学部FDに関する取組み内容を共有管理しており、同様に研究科における活動結果も研究指導教員の資質の維持向上に役立てることとする。連合獣医学研究科では大学院生の啓発も兼ねてトップレベルの研究者による学術セ

ミナーを年3回開催し、海外研修としてJoint Symposium of Veterinary Research among University of Veterinary Medicine in East Asiaに参加しているが、いずれもFD研修に資するものであり、共同獣医学研究科においてもFD研修の一環として継続実施する。

教育の質向上のための取組みとして、両大学の授業担当教員を対象にして、カウンターパート教員との打合せ状況、メディア授業の方法、学生の成績評価法、及び授業成果等、共同獣医学研究科の教育課程に関する自己評価アンケートを行う。授業担当教員アンケートデータを基に、遠隔授業システムの利用技術や授業コンテンツの作成法に関して、FD研修会において議論するとともに、教員の授業スキルの向上に取り組む。共同獣医学研究科の教育方法及び内容について、学生による授業評価アンケートを実施する。遠隔授業やLMSによるEラーニングに関するアンケートでは、音声や映像等の授業環境及び自学習コンテンツ等の満足度、授業の臨場感、及び対面式授業との比較についても意見収集する。学生の意見を参考に、教員は課題解決に努め、学生の授業満足度を上昇させるよう授業スキルの向上に取り組む。このような取組みを通じて、共同獣医学研究科における教育の質向上及び改善のためのPDCAシステムを構築する。共同獣医学部と同様に、共同獣医学研究科においても、両大学で独自に行うFD活動に加えて、年1回の合同FD研修会を実施する。研究科を構成する専任教員が一つの大学に集合して行うFD研修会によって、両大学の教員間のコミュニケーションを一層深めることができ、共通あるいは個別に抱える課題や問題点を把握し、相互の協力、補完及び相乗効果によって、教育レベルを向上させることが可能となる。なお、教員全員参加のFD研修会となるように、遠隔システムを使用して両大学にも配信する。

研究力向上のために、最先端の研究設備等のインフラを整備し、国際的拠点として研究発信する環境を整えている。研究成果の産業応用等を推進するために、学内に設置した大学研究推進機構（山口大学）や産学官連携推進センター（鹿児島大学）との連携を図り、教員個々の研究成果が大学の知的財産として産業応用されるシステムを、教員は活用できる。さらに、国際戦略室（山口大学）やグローバルセンター（鹿児島大学）を設置し、海外の国際研究拠点や連携大学との共同研究の推進を図る環境を整備している。